≪看護学部≫

実務経験のある教員による授業科目一覧【看護学科】

2022年度カリキュラム（2025年度）

授業科目	単位数	履修学年	担当教員	実務経験	授業内容
基礎看護技術演習	1	1	千葉 今日子	看護師	看護の対象へ提供するための具体的な看護活動に共通する技術を学ぶ。看護活動の始まりである看護の対象を「よく観る」ための観察の重要性を学ぶ。その上で1年次後期・2年次で学ぶ援助方法、さらには対象のライフステージに合わせた臨床での援助方法の基盤となる共通の看護技術を習得する。
			萩原 一美	看護師	
			堀込 由紀	看護師	
			長嶺 めぐみ	看護師	
			村田 亜夕美	看護師	
			森田 綾子	看護師	
日常生活援助学演習Ⅰ（活動・食事・排泄）	1	1	村田 亜夕美	看護師	「基礎看護技術論」の学習をふまえ、対象者のニーズに応じた日常生活援助（食生活と栄養、排泄、活動と休息）に伴う看護援助の基本的技術を習得する。講義では、看護の対象の日常生活行動の活動・休息、安楽と休息、食生活と栄養、排泄に関する援助の目的と方法を理解する。演習では、講義で学修した知識を行動化し、対象の心情の理解や、看護者の役割を体験をとおして学ぶ。
			萩原 一美	看護師	
			堀込 由紀	看護師	
			千葉 今日子	看護師	
			長嶺 めぐみ	看護師	
			森田 綾子	看護師	
			伊藤 順子	看護師	
日常生活援助学演習Ⅱ（清潔・安楽）	1	1	堀込 由紀	看護師	「基礎看護技術論」の学習をふまえ、対象者のニーズに応じた日常生活援助（清潔の保持、衣生活）に伴う看護援助の基本的技術を習得する。講義では看護の対象の清潔を保つ意義、目的、方法の知識を理解する。演習では、講義で学修した知識を行動化し、安全・安楽な清潔への援助方法を実施する。その上で、対象の心情の理解や、看護者の役割を体験をとおして学ぶ。
			萩原 一美	看護師	
			千葉今日子	看護師	
			長嶺 めぐみ	看護師	
			村田 亜夕美	看護師	
			森田 綾子	看護師	
ヘルスアセスメント演習	1	2	森田 綾子	看護師	授業科目「ヘルスアセスメント」の学習をふまえ、対象者の健康と生活の情報を把握し、人間の身体的・心理的・社会的側面をアセスメントするために必要な技術・プロセス・態度を習得する。また、解剖生理学、病態生理学の基本的知識に基づき、看護に必要となる対象者の身体的な情報について、五感を駆使して収集する方法を系統別に学び、アセスメントに必要な技術・プロセス・態度を習得する。バイタルサイン測定、器官系統別ヘルスアセスメントの技術を演習により修得する。
			萩原 一美	看護師	
			堀込 由紀	看護師	
			千葉 今日子	看護師	
			長嶺 めぐみ	看護師	
			村田 亜夕美	看護師	
看護過程展開論演習	1	2	千葉 今日子	看護師	本科目では、看護の対象者のニーズに応じた看護援助を意図的・科学的に行っていくための、紙上事例を教材として活用し授業を進めていく。講義では科目名「看護過程入門」の知識をもとに、紙上事例の対象理解をするための情報の整理・分析を行う。演習では、アセスメント、看護診断、看護援助計画立案、看護援助実施、評価までの過程を、対象者の状況に合わせ個別性を踏まえた看護過程展開を行う。
			萩原 一美	看護師	
			堀込 由紀	看護師	
			長嶺 めぐみ	看護師	
			村田 亜夕美	看護師	
			森田 綾子	看護師	
治療援助学演習	1	2	長嶺 めぐみ	看護師	医療現場において治療・処置に伴う看護援助は、安全かつ正確であることが求められる。また、治療・処置を必要とする対象者の身体状況や療養生活・療養行動をアセスメントし、対象者に応じた援助を計画、実施することは看護師が日々実施する主な看護業務である。本科目では与薬管理、呼吸管理、検査・処置時の援助といった基本的な治療・処置に伴う看護援助を安全かつ正確に提供するために必要な知識・技術・態度を習得する。
			萩原 一美	看護師	
			堀込 由紀	看護師	
			千葉 今日子	看護師	
			村田 亜夕美	看護師	
			森田 綾子	看護師	
地域・在宅看護学演習	1	3	反町 真由	看護師	在宅療養者と家族の日常生活を支援するための、在宅の環境や生活様式を踏まえた看護技術を習得する。在宅で特徴的な看護技術として、在宅酸素療法、在宅人工呼吸療法の呼吸管理、皮膚・排泄管理、栄養管理について医療処置と看護ケアを学ぶ。また、医療機関や施設とは異なる療養者の生活の場に入って看護を提供することを理解し、看護者としての留意すべき態度、行動について学ぶ。
			齋藤 基	看護師	
			林 恵	看護師	

≪看護学部≫

実務経験のある教員による授業科目一覧【看護学科】

2022年度カリキュラム（2025年度）

授業科目	単位数	履修学年	担当教員	実務経験	授業内容
成人看護学演習	1	3	金子 吉美	看護師	成人期にある患者に対する個別性のある看護を考察するために、成人期に特有の健康問題を有する人の紙上事例を用いて、一連の看護過程を展開し、成人期にある患者を捉える視点を養う。また、この紙上事例に基づいて立案した看護計画を実践し、患者の健康回復の支援に必要な看護技術を習得する。さらに、健康問題をかかえる成人期にある人の治療や回復過程を支援するために必要な基本的看護技術を習得する。
			萩原 英子	看護師	
			堀越 政孝	看護師	
			湯澤 香緒里	看護師	
			日下田 那美	看護師	
老年看護学演習	1	3	関 妙子	看護師	老年期特有の障害を有する対象者に対する看護過程の展開方法について学ぶ。また、高齢者に特徴的な疾患である骨関節機能障害・循環機能障害・認知機能障害をもつ高齢者の事例展開を通して、アスセメントと看護過程の具体的な展開方法を演習により学習する。さらに、老年期にある対象とのコミュニケーション、活動、食事・栄養、清潔、安全を守る技術等、高齢者への基本的援助技術について演習を通して習得する。
			東泉 貴子	看護師	
小児看護学演習	1	3	中下 富子	看護師	様々な発達段階にある子どもの健康問題の病態生理や治療過程を理解し、子どもとその家族の特徴及び子どもの精神的・身体的・社会的諸問題を理解するために、複数の事例（内科・外科・重症心身障害児など疾病をもつ乳児期から思春期までの患児）を用いて、情報の整理・アセスメント・看護問題の抽出・看護援助計画の一連の看護展開方法を習得する。また、看護実践において必要不可欠となる小児看護特有の基礎的技術（バイタルサイン測定、検査時の抑制方法、プレパレーションなど）を新生児・乳幼児モデルを使用して習得する。
			高野 直美	看護師	
母性看護学演習	1	3	橋爪 由紀子	看護師	これまでの既習知識に基づき、妊娠期･分娩期･産褥期にある女性と胎児及び新生児の看護に必要な基本技術（フィジカルアセスメントも含む）を習得する。また、事例を通して妊娠期・分娩期・産褥期の女性と胎児及び新生児における看護過程を展開し、必要な看護援助について理解する。
			廣瀬 文乃	看護師	
			吉野 めぐみ	看護師	
精神看護学演習	1	3	西川 薫	看護師	精神（こころ）の健康問題を持つ人に対する看護過程の事例展開を通して、患者－看護師関係の発展方法、対象者のセルフケアの再構築、及びストレングス・モデルを活かした看護展開方法を学習する。精神看護の技術としての自己活用、患者－看護師関係の治療的意味と検討方法を理解し、精神看護学における治療的関係性の構築が理解できること、代表的な精神疾患に対する看護が理解できること、精神障害を持つ人のセルフケアの再構築に向けた看護過程の展開が理解できることを目指す。
			佐藤 和也	看護師	
個人・家族の公衆衛生看護技術演習 ※保健師課程のみ	1	4	奥野 みどり	保健師	個人・家族による主体的な健康課題の解決・改善に向けた継続支援の展開方法を具体的な事例をとおして理解し、また、公衆衛生看護活動の方法である家庭訪問、健康相談、保健指導、健康診査について、演習を中心とする学習により基本技術を習得する。実践現場のあらゆる場面でこれらの活動方法を適切に選択・適用し得る判断力・応用力を養うことを目指し、ロールプレイングや地域の実践例を素材とした活動展開の演習を組み合わせて学習する。
			矢島 正栄	保健師	
			小林 亜由美	保健師	
			川尻 洋美	保健師	
集団・地域の公衆衛生看護技術演習 ※保健師課程のみ	1	4	川尻 洋美	保健師	個人の健康課題を起点として集団・組織の課題を見いだし、ハイリスクアプローチとポピュレーションアプローチの連動による解決方法を考える。家庭訪問の継続支援から地域組織育成への展開方法を、事例を活用した演習で学習する。また、産業保健、学校保健における活動の展開について事例を用いた演習を行い、集団の特性に応じた課題解決への活動方法を学習する。
			矢島 正栄	保健師	
			小林 亜由美	保健師	
			奥野 みどり	保健師	
施策化・政策形成過程演習 ※保健師課程のみ	2	4	川尻 洋美	保健師	地域の健康問題を明確化し、地域の特性を踏まえて解決・改善に向けた計画を立案する能力・社会資源開発、システム化、施策化する能力を育成する。保健統計から多角的・継続的・包括的アセスメントの実施、地域の顕在的・潜在的健康課題の明確化、今後起こりうる健康課題の予測・地域の人々の健康を守る力量の把握、健康課題の優先順位付け、解決・改善に向けた目的・目標の設定、地域の人々に適した支援方法の選択、実施計画・評価計画の立案について演習を通して体験的に学ぶ。
			矢島 正栄	保健師	
			小林 亜由美	保健師	
			奥野 みどり	保健師	

≪看護学部≫

実務経験のある教員による授業科目一覧【看護学科】

2022年度カリキュラム（2025年度）

授業科目	単位数	履修学年	担当教員	実務経験	授業内容
助産診断技術学演習 ※助産師課程のみ	2	4	中島 久美子	助産師	正常経過の助産診断技術学で学んだ理論に基づき、妊婦健康診査時の妊婦への援助、分娩進行の診断に係る技術、産痛の緩和と安楽な分娩期の過ごし方への援助、分娩介助技術、新生児の観察とケア、褥婦への援助と母乳育児支援等を演習により習得する。 助産の実践に必要な基本的技術及び分娩等において、対象や他職種の専門性を尊重し、適切な役割分担と連携の下で支援を行うための高いコミュニケーション能力を演習により習得する。
			橋爪 由紀子	助産師	
			廣瀬 文乃	助産師	
			吉野 めぐみ	助産師	
ハイリスク助産診断技術学演習 ※助産師課程のみ	1	4	廣瀬 文乃	助産師	異常な経過をたどる妊産褥婦の事例を通して、妊娠、分娩、産褥、新生児期の異常経過を予測し、異常時の援助ができるための助産過程の展開を学び、異常時の対応を演習により習得する。 ハイリスク助産診断技術学で学んだ理論に基づき、妊婦健康診査に係る技術(ノンストレステストの実施、経腹超音波など)、異常発生時の母子への介入に係る技術として、胎児機能不全への対応、産科危機的出血への処置、産婦に対する一時救命処置、新生児蘇生法の実施、会陰切開及び裂傷時の縫合等を演習により習得する。
			中島 久美子	助産師	
			橋爪 由紀子	助産師	
			吉野 めぐみ	助産師	
看護基礎実習	1	1	千葉 今日子	看護師	療養生活支援実習及び臨床看護実習、地域・在宅看護実習の基盤の実習となるよう、従来の病院での療養者（患者）だけを対象とするのではなく、さまざまな場（環境）で生活する看護の対象を理解する。対象を理解する上で必要な、コミュニケーションの基本「聴く」「書く」「話す」を通して、自己のコミュニケ―ションを振り返る。
			萩原 一美	看護師	
			堀込 由紀	看護師	
			長嶺 めぐみ	看護師	
			村田 亜夕美	看護師	
			森田 綾子	看護師	
療養生活支援実習	2	2	堀込 由紀	看護師	健康問題を抱えた対象の療養生活上のニーズを捉え、対象者と援助的関係を築きながら、 日常生活援助支援を中心とした看護を実践するための基礎的能力を育む。また、看護を実践する上で必要な思考過程を学ぶ。
			萩原 一美	看護師	
			千葉 今日子	看護師	
			長嶺 めぐみ	看護師	
			村田 亜夕美	看護師	
			森田 綾子	看護師	
臨床看護基盤実習	2	2	堀越 政孝	看護師	生活上の視点から看護の対象を捉え看護過程を展開する方法から、健康問題・健康障害をもつ対象という視点に移行する初期の段階に位置づけた実習となる。1名の患者を受け持ち、健康上の問題に焦点をあて、情報の分析、看護診断、計画立案、実施・評価という、健康問題の解決のための看護の過程を学ぶ。
			関 妙子	看護師	
			金子 吉美	看護師	
			萩原 一美	看護師	
			堀込 由紀	看護師	
			千葉 今日子	看護師	
			橋爪 由紀子	看護師	
			長嶺 めぐみ	看護師	
			反町 真由	看護師	
			東泉 貴子	看護師	
			高野 直美	看護師	
			佐藤 和也	看護師	
			川尻 洋美	看護師	
			村田 亜夕美	看護師	
			湯澤 香緒里	看護師	
			日下田 那美	看護師	
			廣瀬 文乃	看護師	
			吉野 めぐみ	看護師	
			森田 綾子	看護師	
			林 恵	看護師	

≪看護学部≫

実務経験のある教員による授業科目一覧【看護学科】

2022年度カリキュラム（2025年度）

授業科目	単位数	履修学年	担当教員	実務経験	授業内容
地域・在宅看護学実習	2	3	齋藤 基	看護師	訪問看護ステーションでの実習を通して、地域で生活しながら療養する対象と家族に対する具体的な看護の実践方法を学ぶ。在宅療養者と家族の生活にふれ、訪問看護の実際に参加することで、地域における訪問看護の役割と責任について考える。また、地域ケアシステムの中での関係機関・関係職種との連携方法を理解する。更に、地域で生活する健康レベルの高い人の健康を保持するための支援方法を学ぶ。
			反町 真由	看護師	
			林 恵	看護師	
成人看護学実習	5	3	萩原 英子	看護師	既習の知識、技術を用いて、健康問題をもつ成人期にある対象を総合的に捉え、看護を実践する能力を養う。地域で生活している対象が外来受診後、入院し、治療やリハビリテーションを経て、地域での生活に戻るという一連の過程を踏まえ、受け持ち患者及び家族の身体的・心理的・社会的特徴を理解する。また、対象の特徴や疾患、病期等をもとにアセスメントし、看護計画を立案・実施・評価をする。看護計画の立案においては、患者の心身の苦痛を緩和する援助及び治療・検査時の援助、患者・家族のセルフマネジメント能力獲得の支援方法を考察し、実践を通してその看護技術を習得する。さらに、医療チームの活動の見学や参加により、医療チームにおける看護師の役割と医療従事者としての基本的態度を養う。
			堀越 政孝	看護師	
			金子 吉美	看護師	
			湯澤 香緒里	看護師	
			日下田 那美	看護師	
老年看護学実習	3	3	東泉 貴子	看護師	病院及び介護保険施設において、健康障害をもつ高齢者とその家族の特徴を総合的に理解する。病院においては、疾病をもつ高齢者を受け持ち、指導者のもとで疾患及び患者の生活機能を踏まえた健康課題を把握し、既習の知識や技術を統合して看護過程を展開する。また、介護保険施設においては施設のもつ役割と機能、多職種が協働して取り組む支援方法を理解し、日常生活を送る認知症高齢者の特徴と援助方法を学習する。さらに、高齢者に向き合う自己の姿勢や高齢者観と看護について学問的に追求する姿勢を養う。
			関 妙子	看護師	
小児看護学実習	2	3	高野 直美	看護師	健康段階の異なる子どもが生活する4つの施設（保育所・小児病棟・NICU/GCU・重症心身障害児施設）で実習を行う。成長・発達の過程にある子どもの特徴を理解し、病気や障害があること、治療を受けることや病院、施設に入院・入所することが、子ども自身やその家族にどのような影響をもたらすのかを学ぶ。また、子どもの入院生活において、単に健康回復に向けた援助のみでなく、成長発達を阻害する要因に着目し、子どもや家族のもつ強みを生かした看護援助方法を学ぶ。
			中下 富子	看護師	
母性看護学実習	2	3	橋爪 由紀子	看護師	正常褥婦とその新生児1組を受け持ち、指導のもと個別性を踏まえ、看護の計画・実施・評価の過程を展開する。また、外来（妊婦健康診査・不妊外来）・健康教育（両親学級・ヨガ）や分娩の立会いを通し、妊娠・分娩・産褥・新生児についての経過（身体的・心理的・社会的変化）を理解し、健康保持増進・苦痛緩和のための援助方法と保健指導の重要性を学ぶ。
			廣瀬 文乃	看護師	
			吉野 めぐみ	看護師	
精神看護学実習	2	3	佐藤 和也	看護師	精神科（閉鎖、開放）病棟において、入院患者1名以上を受け持ち、看護過程を展開する。指導者のもとで、既習の知識を統合して、精神の健康障害がセルフケアに及ぼす影響を把握し、セルフケア行動がとれるよう援助する方法を考え、実践し評価する。実習を通して精神医療における看護の役割・機能及び精神を障害された個人とその家族の理解を深め、自己の内面の変化を洞察し、自己理解や看護観を深める。また、患者との適切な援助関係を結ぶための看護師としてのコミュニケーション技術について考える。
			西川 薫	看護師	

≪看護学部≫

実務経験のある教員による授業科目一覧【看護学科】

2022年度カリキュラム（2025年度）

授業科目	単位数	履修学年	担当教員	実務経験	授業内容
統合実習	2	4	萩原 一美	看護師	既習の知識や技術を統合し、ケア提供組織の中で展開されるチームアプローチを通して、総合的な看護実践能力を高める。複数の患者に対し、その特性や状況にあわせた計画的・継続的看護を提供する方法を学ぶ。また、看護の質保障と安全管理のためのシステム、看護職間及び多職種間における協同・連携（チームアプローチ）について、看護スタッフと共に行動することを通して、理解を深める。さらに、これらの活動を通して学生自身が見いだした課題について探索的に学ぶことにより、看護専門職としての価値と専門性を発展させていく姿勢を養う。
			中下 富子	看護師	
			西川 薫	看護師	
			萩原 英子	看護師	
			中島 久美子	看護師	
			堀越 政孝	看護師	
			関 妙子	看護師	
			金子 吉美	看護師	
			堀込 由紀	看護師	
			長嶺 めぐみ	看護師	
			反町 真由	看護師	
			東泉 貴子	看護師	
			高野 直美	看護師	
			佐藤 和也	看護師	
			川尻 洋美	看護師	
			村田 亜夕美	看護師	
			湯澤 香緒里	看護師	
			日下田 那美	看護師	
			廣瀬 文乃	看護師	
			吉野 めぐみ	看護師	
			森田 綾子	看護師	
			林 恵	看護師	
公衆衛生看護学実習 ※保健師課程のみ	5	4	奥野 みどり	保健師	保健所とその管内市町村における保健活動の実際を体験することにより、地域住民の健康と生活に対する理解を深め、個人・家族・集団・地域の特性に応じた、継続した指導も含めた公衆衛生看護活動の展開方法を学ぶ。またPDCAの展開や、多職種との協働の過程を事業化した事例をとおして学ぶ。さらに、産業保健領域、学校保健領域の活動について学ぶ。
			矢島 正栄	保健師	
			小林 亜由美	保健師	
			川尻 洋美	保健師	
助産学実習 ※助産師課程のみ	11	4	中島 久美子	助産師	助産診断・技術学、地域母子保健及び助産管理において習得した助産学の知識・技術を統合して助産の実践能力を高める。10例を受け持ち正常分娩介助を通して助産過程を展開する。このうち1例については、妊娠中期から分娩期、生後1カ月までを受け持ち、母子の継続的な健康診査・助産ケアを行う。また、産褥期の授乳支援や1カ月健康診査までの母子のアセスメント及び母子と家族を支援する。ハイリスクの妊産褥婦1例を受け持ち助産過程を展開する。地域における助産(助産所訪問等)・母子保健活動の実際を知り、助産師の役割を学び、産後4カ月の母子のアセスメントを行う。助産業務の管理について実習を通して学ぶ。
			橋爪 由紀子	助産師	
			廣瀬 文乃	助産師	
			吉野 めぐみ	助産師	
合計単位数	58				

≪リハビリテーション学部≫

実務経験のある教員による授業科目一覧【理学療法学科】

2025年度カリキュラム（2025年度）

授業科目	単位数	履修学年	担当教員	実務経験	講義内容
理学療法総合演習	1	4	目黒 力	理学療法士	これまでの学習した理学療法の対象、評価法、介入法について、評価学実習、総合臨床実習Ⅰ及びⅡでの経験を基に、理学療法の基礎、及び各専門分野の総合的な復習と、知識技術の統合を行う。また、今後職業として実践する理学療法について整理・統合するとともに、専門職としての理学療法のあり方、理学療法研究の意味を確認する。
			佐藤 満	理学療法士	
			木村 朗	理学療法士	
			鈴木 学	理学療法士	
			富田 浩	理学療法士	
			岡崎 大資	理学療法士	
			浅田 春美	理学療法士	
			城下 貴司	理学療法士	
			黒川 望	理学療法士	
			橋口 優	理学療法士	
			加茂 智彦	理学療法士	
			田辺 将也	理学療法士	
			林 翔太	理学療法士	
卒業研究	1	4	木村 朗	理学療法士	卒業後、自ら研究する姿勢と能力を養うことを目的に、専門科目担当教員の指導の下、テーマを定めて研究に取り組む。具体的には、研究の必要性の理解、研究課題の設定、文献検索、具体的研究テーマと目的の設定、研究方法の選択（実験研究、臨床研究）、倫理的配慮、研究計画書の作成、データの収集・集計・分析・考察、論文作成して発表する。
			佐藤 満	理学療法士	
			鈴木 学	理学療法士	
			目黒 力	理学療法士	
			富田 浩	理学療法士	
			岡崎 大資	理学療法士	
			浅田 春美	理学療法士	
			城下 貴司	理学療法士	
			黒川 望	理学療法士	
			橋口 優	理学療法士	
			加茂 智彦	理学療法士	
			田辺 将也	理学療法士	
			林 翔太	理学療法士	
基礎理学療法診断学演習	1	2	黒川 望	理学療法士	対象者の問題を解決するための理学療法の前提は的確な理学療法診断がなされることであり、理学療法ゴールと方針が導かれる礎となるものである。演習では、理学療法評価を含む記録方法について学び、適切な評価項目の選定も含め科学的な評価の考え方を理解する。技術としては、人間の動きを生み出す力源である筋力の測定方法について重点的に学ぶ。具体的には徒手筋力検査法及び筋力検査機器による測定方法を習得する。
			浅田 春美	理学療法士	
			加茂 智彦	理学療法士	
			林 翔太	理学療法士	
運動機能系理学療法診断学演習	1	2	城下 貴司	理学療法士	理学療法の対象となる障害のうち、多くの割合を占める運動器系（骨・関節、筋、末梢神経、軟部組織）の疾患・障害の理学療法評価学を学ぶ。具体的には、筋力検査や関節可動域検査などの基本的な運動器の検査技術の理解の上に立ち、運動器系疾患・障害に固有な検査・測定方法、患者立脚型機能評価質問票、日本整形外科学会の判定基準、骨・関節や筋及び軟部組織のX線やMRI及び超音波による画像による評価技術を講義と実技を通じて学ぶ。
			田辺 将也	理学療法士	
神経機能系理学療法診断学演習	1	2	林 翔太	理学療法士	中枢神経系疾患および末梢神経疾患に生じる障害を評価する検査法と、検査結果を如何に統合解釈し、問題点の抽出、目標設定していくかを学習する。具体的には、片麻痺機能テスト、筋緊張検査、深部腱反射検査、病的反射検査、感覚検査、バランス検査、協調性検査、高次脳機能検査、脳画像検査などを取り上げ、それらの検査の意義、正常と異常の違いなどを学習する。さらに各種検査所見を統合し、その結果から問題点の抽出、目標設定を行う能力を養う。
			加茂 智彦	理学療法士	
			田辺 将也	理学療法士	

≪リハビリテーション学部≫

実務経験のある教員による授業科目一覧【理学療法学科】

2025年度カリキュラム（2025年度）

授業科目	単位数	履修学年	担当教員	実務経験	講義内容
内部機能系理学療法診断学演習	1	2	加茂 智彦	理学療法士	呼吸・循環・代謝系の病態に対して、カルテ情報や画像情報・問診・観察によって標準的な理学療法の適応判断が求められる生理的機能、心理的影響等において理学療法士が行う診断学を学習する。内部疾患に対して病態改善のみならず、合併症として運動負荷によるリスクが生じうる状況について固有の検査・測定技術・評価データの解釈、内部機能を改善する理学療法を学ぶ。
			木村 朗	理学療法士	
			田辺 将也	理学療法士	
運動機能系理学療法治療学演習	1	2	城下 貴司	理学療法士	運動器系理学療法学の治療学に関して講義と演習を通じて理論と実践について学ぶ。具体的には、幅広い運動器系疾患の中から、大腿骨頚部骨折、変形性膝関節症、慢性関節リウマチ、切断、熱傷、骨盤底筋群不全を取り上げる。これらについて、講義に加え、一部問題解決型学習とデモンストレーションの演習を行い、運動器系疾患に対する理学療法士としての対応能力を修得する。
脊髄疾患理学療法学	1	3	田辺 将也	理学療法士	脊髄疾患は理学療法の主要な対象疾患である。脊髄疾患には外傷性の脊髄損傷と、疾病による脊髄腫瘍や血管障害及び進行性難病がある。疾病による脊髄疾患は神経系疾患で取り扱うので、本講義では、脊髄疾患の基本的な症状を示す脊髄損傷に関して重点的に学ぶ。具体的には、脊髄損傷の疫学、病理と臨床像、障害タイプの分類と予後、合併症とその管理について理解した上で、脊髄損傷に対する理学療法診断学と治療学について学ぶ。
			城下 貴司	理学療法士	
神経機能系理学療法治療学演習	1	3	鈴木 学	理学療法士	脳梗塞・脳出血などの脳血管障害、パーキンソン病・脊髄小脳変性症などの変性疾患、脳性麻痺など各種神経疾患の症状と、それに伴う障害についての知識を学び習得する。また、上記各疾患・障害に対する理学療法、とりわけ運動療法の原理、診断と治療体系、目標設定とその実現のための問題点の抽出、治療計画の立案方法について学習する。さらに、各疾患における重要なリスク管理方法や理学療法の効果判定についての考え方と方法論を学ぶ。
			林 翔太	理学療法士	
内部機能系理学療法治療学演習	1	3	林 翔太	理学療法士	呼吸・循環・代謝系疾患障害に対する病態の理解を深め、疾患特有の検査及び評価、リスク管理、理学療法介入を学習する。具体的には、心電図や血液データ、呼吸機能、運動耐容能などの検査・評価方法に加え、筋力トレーニングや有酸素運動、生活指導、生活習慣病や障害予防などについて、その考え方と対応、実践方法を学ぶ。
			木村 朗	理学療法士	
			加茂 智彦	理学療法士	
物理療法学演習	1	3	目黒 力	理学療法士	「物理療法学」で学習した基礎的知識をもとに、実際の方法を学ぶ。安全且つ適切、迅速に実践できること、ケースに対してインフォームドコンセントを確実に行えるようにすることを目標とする。各種測定機器を用いて各自物理療法による生理学的変化を測定・分析することを通じて、疾患に応じて適切な物理療法を適用する力を養う。
			黒川 望	理学療法士	
高齢者理学療法学演習	1	3	岡崎 大資	理学療法士	理学療法の対象者において、高齢者は多くを占めている。演習では地域在住の高齢者を対象とする地域理学療法について、見学・体験実習を実施することで、医療的視点に加え生活に対する視点を持つとともに、地域における高齢者に対する理学療法士の役割について学ぶ。併せて、地域理学療法に従事するために熟知しておくべき法制度を学ぶとともに、法制度に基づく分野での理学療法の目的、現況等を、各法制度の目的や方法、制定に至った歴史的背景、具体的事例等を通して学習する。
			林 翔太	理学療法士	

≪リハビリテーション学部≫

実務経験のある教員による授業科目一覧【理学療法学科】

2025年度カリキュラム（2025年度）

授業科目	単位数	履修学年	担当教員	実務経験	講義内容
見学実習	1	2	橋口 優	理学療法士	学内で学んだ理学療法の基礎知識を基に、病院・施設での見学実習を通じて、理学療法の業務全般を体験して学ぶ。具体的には、理学療法の対象疾患、理学療法の流れ、理学療法評価、理学療法の治療法、リハビリテーションでの位置づけ等を実体験する。
			佐藤 満	理学療法士	
			木村 朗	理学療法士	
			鈴木 学	理学療法士	
			目黒 力	理学療法士	
			富田 浩	理学療法士	
			岡崎 大資	理学療法士	
			浅田 春美	理学療法士	
			城下 貴司	理学療法士	
			黒川 望	理学療法士	
			加茂 智彦	理学療法士	
			田辺 将也	理学療法士	
			林 翔太	理学療法士	
評価学実習	4	3	橋口 優	理学療法士	学内で学んだ理学療法の評価法の知識・技術を中心に病院・施設で実習する。理学療法の対象疾患である中枢神経疾患、整形外科疾患等の医療面接法、各種検査・測定、記録法等について、臨床実習指導者の下で実体験する。実習期間前後の合計5日間を事前事後指導にあてる。
			佐藤 満	理学療法士	
			木村 朗	理学療法士	
			鈴木 学	理学療法士	
			目黒 力	理学療法士	
			富田 浩	理学療法士	
			岡崎 大資	理学療法士	
			浅田 春美	理学療法士	
			城下 貴司	理学療法士	
			黒川 望	理学療法士	
			加茂 智彦	理学療法士	
			田辺 将也	理学療法士	
			林 翔太	理学療法士	
地域理学療法実習	1	3	田辺 将也	理学療法士	地域包括支援の方向にあって、地域での生活を支援するために必要な理学療法、多職種との連携、行政との関わりを理解することを目的とした実習を行う。通所でのリハビリテーションまたは訪問リハビリテーションにて実務体験を通じて、多様な理学療法のありかたや多職種との連携を実践的に学ぶ。
			佐藤 満	理学療法士	
			木村 朗	理学療法士	
			鈴木 学	理学療法士	
			目黒 力	理学療法士	
			富田 浩	理学療法士	
			岡崎 大資	理学療法士	
			浅田 春美	理学療法士	
			城下 貴司	理学療法士	
			黒川 望	理学療法士	
			橋口 優	理学療法士	
			加茂 智彦	理学療法士	
			林 翔太	理学療法士	

≪リハビリテーション学部≫

実務経験のある教員による授業科目一覧【理学療法学科】

2025年度カリキュラム（2025年度）

授業科目	単位数	履修学年	担当教員	実務経験	講義内容
総合臨床実習Ⅰ	7	4	加茂 智彦	理学療法士	学内で学んだ理学療法の知識、技術全般について、病院、施設で実習する。患者を対象として理学療法の流れに従って、評価、治療目標の設定、治療プログラムの作成、治療の実施、記録等を、臨床実習指導者の下で学ぶ。とりわけ、治療プログラムの作成までを重視する。実習期間前後の合計5日間を事前事後指導にある。
			佐藤 満	理学療法士	
			木村 朗	理学療法士	
			鈴木 学	理学療法士	
			目黒 力	理学療法士	
			富田 浩	理学療法士	
			岡崎 大資	理学療法士	
			浅田 春美	理学療法士	
			城下 貴司	理学療法士	
			黒川 望	理学療法士	
			橋口 優	理学療法士	
			田辺 将也	理学療法士	
			林 翔太	理学療法士	
総合臨床実習Ⅱ	7	4	鈴木 学	理学療法士	学内で学んだ理学療法の知識、技術全般について、病院、施設で実習する。患者を対象として理学療法の流れに従って、理学療法評価、治療目標の設定、治療プログラムの作成、治療の実施、記録等を、臨床実習指導者の下で学ぶ。実習期間の前後合計5日間を事前事後指導にあてる。
			佐藤 満	理学療法士	
			木村 朗	理学療法士	
			目黒 力	理学療法士	
			富田 浩	理学療法士	
			岡崎 大資	理学療法士	
			浅田 春美	理学療法士	
			城下 貴司	理学療法士	
			黒川 望	理学療法士	
			橋口 優	理学療法士	
			加茂 智彦	理学療法士	
			田辺 将也	理学療法士	
			林 翔太	理学療法士	
合計単位数	32				

≪リハビリテーション学部≫

実務経験のある教員による授業科目一覧【理学療法学科】

2021年度カリキュラム（2025年度）

授業科目	単位数	履修学年	担当教員	実務経験	講義内容
理学療法総合演習	1	4	目黒 力	理学療法士	これまでの学習した理学療法の対象、評価法、介入法について、総合臨床実習Ⅰ及びⅡでの経験を基に、今後職業として実践する理学療法について整理・統合するとともに、専門職としての理学療法のあり方、理学療法研究の意味を確認する。
			佐藤 満	理学療法士	
			木村 朗	理学療法士	
			鈴木 学	理学療法士	
			富田 浩	理学療法士	
			岡崎 大資	理学療法士	
			浅田 春美	理学療法士	
			城下 貴司	理学療法士	
			黒川 望	理学療法士	
			橋口 優	理学療法士	
			加茂 智彦	理学療法士	
			田辺 将也	理学療法士	
			林 翔太	理学療法士	
卒業研究	2	4	木村 朗	理学療法士	卒業後、自ら研究する姿勢と能力を養うことを目的に、専門科目担当教員の指導の下、テーマを定めて研究に取り組む。具体的には、研究の必要性の理解、研究課題の設定、文献検索、具体的研究テーマと目的の設定、研究方法の選択（実験研究、臨床研究）、倫理的配慮、研究計画書の作成、データの収集・集計・分析・考察、論文作成して発表する。
			佐藤 満	理学療法士	
			鈴木 学	理学療法士	
			目黒 力	理学療法士	
			富田 浩	理学療法士	
			岡崎 大資	理学療法士	
			浅田 春美	理学療法士	
			城下 貴司	理学療法士	
			黒川 望	理学療法士	
			橋口 優	理学療法士	
			加茂 智彦	理学療法士	
			田辺 将也	理学療法士	
			林 翔太	理学療法士	
基礎理学療法診断学演習	1	2	黒川 望	理学療法士	対象者の問題を解決するための理学療法の前提は的確な理学療法診断がなされることであり、理学療法ゴールと方針が導かれる礎となるものである。演習では、理学療法診断を含む記録方法について学び、適切な診断項目の選定も含め科学的な診断の考え方を理解する。技術としては、人間の動きを生み出す力源である筋力の測定方法について重点的に学ぶ。具体的には徒手筋力検査法及び筋力検査機器による測定方法を習得する。
			浅田 春美	理学療法士	
			加茂 智彦	理学療法士	
			林 翔太	理学療法士	
運動機能系理学療法診断学演習	1	2	城下 貴司	理学療法士	理学療法の対象となる障害のうち、多くの割合を占める運動器系（骨・関節、筋、末梢神経、軟部組織）の疾患・障害の理学療法診断学を学ぶ。具体的には、筋力検査や関節可動域検査などの基本的な運動器の検査技術の理解の上に立ち、運動器系疾患・障害に固有な検査・測定方法、日本整形外科学会の判定基準、骨・関節や筋及び軟部組織のX線やMRI及び超音波による画像による診断技術を講義と実技を通じて学ぶ。
神経機能系理学療法診断学演習	1	2	鈴木 学	理学療法士	脳神経など末梢神経疾患と中枢神経系疾患に生じる障害を評価する検査法と、検査結果を如何に統合解釈し、問題点を抽出し、目標を設定していくかを学習する。具体的には、片麻痺機能テスト、筋緊張検査、深部腱反射検査、病的反射検査、感覚検査、姿勢反射検査、協調性検査、高次脳機能検査などを取り上げ、それらの検査の意義、正常と異常の違いなどを学習する。さらに各種検査所見を統合し、その結果から問題点の抽出、目標設定を行う能力を養う。
			浅田 春美	理学療法士	
			黒川 望	理学療法士	
			加茂 智彦	理学療法士	
			田辺 将也	理学療法士	
			林 翔太	理学療法士	

≪リハビリテーション学部≫

実務経験のある教員による授業科目一覧【理学療法学科】

2021年度カリキュラム（2025年度）

授業科目	単位数	履修学年	担当教員	実務経験	講義内容
内部機能系理学療法診断学演習	1	3	田辺 将也	理学療法士	呼吸・循環・代謝系の病態に対して、カルテ情報や画像情報・問診・観察によって標準的な理学療法の適応判断が求められる生理的機能、心理的影響等において理学療法士が行う診断学を学習する。内部疾患に対して病態改善のみならず、合併症として運動負荷によるリスクが生じうる状況について固有の検査・測定技術・評価データの解釈、内部機能を改善する理学療法を学ぶ。
			木村 朗	理学療法士	
			加茂 智彦	理学療法士	
運動機能系理学療法治療学演習	1	2	城下 貴司	理学療法士	運動器系理学療法学の治療学に関して講義と演習を通じて理論と実践について学ぶ。具体的には、幅広い運動器系疾患の中から、大腿骨頚部骨折、変形性膝関節症、慢性関節リウマチ、切断、熱傷、骨盤底筋群不全を取り上げる。これらについて、講義に加え、一部問題解決型学習とデモンストレーションの演習を行い、運動器系疾患に対する理学療法士としての対応能力を修得する。
脊髄疾患理学療法学演習	1	3	城下 貴司	理学療法士	脊髄疾患は理学療法の主要な対象疾患である。脊髄疾患には外傷性の脊髄損傷と、疾病による脊髄腫瘍や血管障害及び進行性難病がある。疾病による脊髄疾患は神経系疾患で取り扱うので、本講義では、脊髄疾患の基本的な症状を示す脊髄損傷に関して重点的に学ぶ。具体的には、脊髄損傷の疫学、病理と臨床像、障害タイプの分類と予後、合併症とその管理について理解した上で、脊髄損傷に対する理学療法診断学と治療学について学ぶ。
神経機能系理学療法治療学演習Ⅰ	1	2	鈴木 学	理学療法士	脳梗塞・脳出血などの脳血管障害、パーキンソン病・脊髄小脳変性症などの変性疾患、脳性麻痺など各種神経疾患の症状と、それに伴う障害についての知識を学び習得する。また、上記各疾患・障害に対する理学療法、とりわけ運動療法の原理、診断と治療体系、目標設定とその実現のための問題点の抽出、治療計画の立案方法について学習する。さらに、各疾患における重要なリスク管理方法や理学療法の効果判定についての考え方と方法論を学ぶ。
			黒川 望	理学療法士	
			加茂 智彦	理学療法士	
			田辺 将也	理学療法士	
			林 翔太	理学療法士	
神経機能系理学療法治療学演習Ⅱ	1	3	鈴木 学	理学療法士	「神経機能系理学療法診断学演習」及び「神経機能系理学療法治療学演習Ⅰ」で学んだ治療体系について技術面の演習を行う。具体的には脳血管障害の急性期・回復期・慢性期それぞれに対応した治療アプローチを習得する。また、進行性神経難病の進行段階に合わせた理学療法を実施できる能力の習得を目指す。診断から効果判定まで系統的な理学療法が実践できるよう具体的な事例で演習を行う。
			加茂 智彦	理学療法士	
			林 翔太	理学療法士	
内部機能系理学療法治療学演習	1	3	木村 朗	理学療法士	本科目では、「内部機能系理学療法診断・治療学」の理解の上に立ち、循環・代謝系疾患障害の固有の検査・測定方法、その結果の解釈、心電図や血液データの見かたを含む診断学、循環・代謝系理学療法治療学、すなわち循環機能の改善、運動耐容能の改善、エネルギー代謝の改善の総論と各論を学ぶ。さらに、生活習慣病や障害予防、喀痰の吸引について、その考え方と対応・実践方法を学ぶ。
			加茂 智彦	理学療法士	
			田辺 将也	理学療法士	
物理療法学演習	1	3	目黒 力	理学療法士	「物理療法学」で学習した基礎的知識をもとに、実際の方法を学ぶ。安全且つ適切、迅速に実践できること、ケースに対してインフォームドコンセントを確実に行えるようにすることを目標とする。各種測定機器を用いて各自物理療法による生理学的変化を測定・分析することを通じて、疾患に応じて適切な物理療法を適用する力を養う。
			岡崎 大資	理学療法士	
			黒川 望	理学療法士	
高齢者理学療法学演習	1	3	岡崎 大資	理学療法士	理学療法の対象者において、高齢者は多くを占めている。演習では地域在住の高齢者を対象とする地域理学療法について、見学・体験実習を実施することで、医療的視点に加え生活に対する視点を持つとともに、地域における高齢者に対する理学療法士の役割について学ぶ。併せて、地域理学療法に従事するために熟知しておくべき法制度を学ぶとともに、法制度に基づく分野での理学療法の目的、現況等を、各法制度の目的や方法、制定に至った歴史的背景、具体的事例等を通して学習する。
			林 翔太	理学療法士	

≪リハビリテーション学部≫

実務経験のある教員による授業科目一覧【理学療法学科】

2021年度カリキュラム（2025年度）

授業科目	単位数	履修学年	担当教員	実務経験	講義内容
見学実習	1	2	浅田 春美	理学療法士	学内で学んだ理学療法の基礎知識を基に、病院・施設での見学実習を通じて、理学療法の業務全般を体験して学ぶ。具体的には、理学療法の対象疾患、理学療法の流れ、理学療法評価、理学療法の治療法、リハビリテーションでの位置づけ等を実体験する。
			佐藤 満	理学療法士	
			木村 朗	理学療法士	
			鈴木 学	理学療法士	
			目黒 力	理学療法士	
			富田 浩	理学療法士	
			岡崎 大資	理学療法士	
			城下 貴司	理学療法士	
			黒川 望	理学療法士	
			橋口 優	理学療法士	
			加茂 智彦	理学療法士	
			田辺 将也	理学療法士	
			林 翔太	理学療法士	
評価学実習	5	3	橋口 優	理学療法士	学内で学んだ理学療法の評価法の知識・技術を中心に病院・施設で実習する。理学療法の対象疾患である中枢神経疾患、整形外科疾患等の医療面接法、各種検査・測定、記録法等について、臨床実習指導者の下で実体験する。実習期間前後の合計5日間を事前事後指導にあてる。
			佐藤 満	理学療法士	
			木村 朗	理学療法士	
			鈴木 学	理学療法士	
			目黒 力	理学療法士	
			富田 浩	理学療法士	
			岡崎 大資	理学療法士	
			浅田 春美	理学療法士	
			城下 貴司	理学療法士	
			黒川 望	理学療法士	
			加茂 智彦	理学療法士	
			田辺 将也	理学療法士	
			林 翔太	理学療法士	
地域理学療法実習	1	3	浅田 春美	理学療法士	地域包括支援の方向にあって、地域での生活を支援するために必要な理学療法、多職種との連携、行政との関わりを理解することを目的とした実習を行う。通所でのリハビリテーションまたは訪問リハビリテーションにて実務体験を通じて、多様な理学療法のありかたや多職種との連携を実践的に学ぶ。
			佐藤 満	理学療法士	
			木村 朗	理学療法士	
			鈴木 学	理学療法士	
			目黒 力	理学療法士	
			富田 浩	理学療法士	
			岡崎 大資	理学療法士	
			城下 貴司	理学療法士	
			黒川 望	理学療法士	
			橋口 優	理学療法士	
			加茂 智彦	理学療法士	
			田辺 将也	理学療法士	
			林 翔太	理学療法士	

≪リハビリテーション学部≫

実務経験のある教員による授業科目一覧【理学療法学科】

2021年度カリキュラム（2025年度）

授業科目	単位数	履修学年	担当教員	実務経験	講義内容
総合臨床実習Ⅰ	8	4	鈴木 学	理学療法士	学内で学んだ理学療法の知識、技術全般について、病院、施設で実習する。患者を対象として理学療法の流れに従って、評価、治療目標の設定、治療プログラムの作成、治療の実施、記録等を、臨床実習指導者の下で学ぶ。とりわけ、治療プログラムの作成までを重視する。実習期間前後の合計5日間を事前事後指導にある。
			佐藤 満	理学療法士	
			木村 朗	理学療法士	
			目黒 力	理学療法士	
			富田 浩	理学療法士	
			岡崎 大資	理学療法士	
			浅田 春美	理学療法士	
			城下 貴司	理学療法士	
			黒川 望	理学療法士	
			橋口 優	理学療法士	
			加茂 智彦	理学療法士	
			田辺 将也	理学療法士	
			林 翔太	理学療法士	
総合臨床実習Ⅱ	8	4	鈴木 学	理学療法士	学内で学んだ理学療法の知識、技術全般について、病院、施設で実習する。患者を対象として理学療法の流れに従って、理学療法評価、治療目標の設定、治療プログラムの作成、治療の実施、記録等を、臨床実習指導者の下で学ぶ。実習期間の前後合計5日間を事前事後指導にあてる。
			佐藤 満	理学療法士	
			木村 朗	理学療法士	
			目黒 力	理学療法士	
			富田 浩	理学療法士	
			岡崎 大資	理学療法士	
			浅田 春美	理学療法士	
			城下 貴司	理学療法士	
			黒川 望	理学療法士	
			橋口 優	理学療法士	
			加茂 智彦	理学療法士	
			田辺 将也	理学療法士	
			林 翔太	理学療法士	
合計単位数	37				

≪リハビリテーション学部≫

実務経験のある教員による授業科目一覧【作業療法学科】

2025年度カリキュラム（2025年度）

授業科目	単位数	履修学年	担当教員	実務経験	講義内容
基礎作業学実習	1	2	松嵜 由莉	作業療法士	作業療法に用いられる代表的な手工芸や手段的日常生活活動について実習を通して、作業療法の治療手段の基礎知識と技術を習得し、様々な対象者に作業を適用するための理解を深める。さらに作業を遂行するために必要な、身体的、心理的、認知的機能とそれらを含む作業分析能力等を学ぶ。また、作業やレクリエーションの準備から実施、片づけ、作品の鑑賞･評価までの一連の実際の体験を通して、各々の作業の意味を学ぶ。
			石代 敏拓	作業療法士	
			浅黄 真紀子	作業療法士	
			芝地 杏花	作業療法士	
作業療法学研究法演習	1	3	石井 良和	作業療法士	作業療法の研究に関して必要な事項や主要概念を理解し、文献を批判的に吟味しながら読めるようになるとともに、問題解決型学習法（Problem-Based Learning: PBL）をもちいて、実際に学生が研究に関連し、理解が不十分な問題を自ら選択して小グループで解決する中で作業療法学における研究の必要性と意義を学ぶ。
卒業研究	2	4	竹原 敦	作業療法士	教員が提示するいくつかの研究領域を選択し、講義や演習、調査・実験などを通じて研究テーマを選択し、最終的に研究論文を完成させる。将来研究を行う上で必要な知識、技術、態度を初歩的な研究実践を通して修得する。具体的な研究テーマを遂行するために必要な技術の一部、プレゼンテーション技法、学術論文の記述方法など、各教員の指導に基づき実践的に学習する。
			村田 和香	作業療法士	
			石井 良和	作業療法士	
			宮寺 寛子	作業療法士	
			馬塲 順子	作業療法士	
			吉岡 和哉	作業療法士	
			近藤 健	作業療法士	
			松嵜 由莉	作業療法士	
			石代 敏拓	作業療法士	
			浅黄 真紀子	作業療法士	
			芝地 杏花	作業療法士	
作業療法評価学演習	1	2	宮寺 寛子	作業療法士	作業療法の手段であり、行為者の行動目的の形成にもなる作業の形態と治療への適応方法の理解を深める。そのための作業分析、作業歴評価、作業遂行評価、環境の評価等の学習を通し作業機能障害を理解し、作業の意味と治療的価値を学習する。
			馬塲 順子	作業療法士	
			吉岡 和哉	作業療法士	
作業療法評価学実習	1	2	松嵜 由莉	作業療法士	身体機能及び精神機能、発達の視点に対する作業療法に用いられる評価について学習する。各評価項目についての理解、評価技法の修得、評価計画法、評価結果のまとめ方、評価結果に基づく治療・訓練・援助プログラムの立案等について、実習を通して学習する。
			石代 敏拓	作業療法士	
			芝地 杏花	作業療法士	
作業療法総合評価演習	1	3	松嵜 由莉	作業療法士	身体機能及び精神機能、発達の視点に対する作業療法に用いられる評価について学習する。各評価項目についての理解、評価技法の修得、評価計画法、評価結果のまとめ方、評価結果に基づく治療・訓練・援助プログラムの立案等について、実習を通して学習する。
			石代 敏拓	作業療法士	
			浅黄 真紀子	作業療法士	
身体領域の作業療法学実習	1	3	近藤 健	作業療法士	身体障害領域の作業療法士として必要な実践的治療技術、ならびに対象理解のために不可欠である活動分析を通じた応用技術を幅広く実践的に学ぶ。とくに身体障害の作業療法や義肢装具療法における治療技術と援助方法の体系イメージを育み、具体的治療から援助方法について、学生相互の模擬演習を主体とした実践的形式から幅広く学ぶ。
			石代 敏拓	作業療法士	
			芝地 杏花	作業療法士	
精神領域の作業療法学実習	1	3	馬塲 順子	作業療法士	精神作業療法学を基礎として、作業療法の実践ができるように、作業療法技法の獲得を目標とする。主な学習内容は、治療方法（治療形態、回復段階に応じた対応等）、疾患別作業療法、地域での精神科リハビリテ-ションにおける作業療法の役割、リスク管理である。
			浅黄 真紀子	作業療法士	

≪リハビリテーション学部≫

実務経験のある教員による授業科目一覧【作業療法学科】

2025年度カリキュラム（2025年度）

授業科目	単位数	履修学年	担当教員	実務経験	講義内容
発達領域の作業療法学演習	1	3	吉岡 和哉	作業療法士	発達領域の作業療法学での学習に基づき、各疾患・障害に対する作業療法を学ぶ。各疾患・障害に対する作業療法の実際を知り、実際に遊具の作成と活動分析を行った上でオリジナルプログラムを立案することを修得する。具体的には自閉症や注意欠如多動症、脳性まひ、知的障害、重症心身障害、摂食障害、被虐待児、進行性筋ジストロフィーの各事例を通して学ぶ。さらに対象となる子供が利用している病院や施設にて実施し評価の実際を学ぶ。
日常生活活動学実習	1	3	宮寺 寛子	作業療法士	日常生活活動学での学びに基づき、日常生活活動の分析方法、評価法、指導法等の技法原理を、実習を通して学習する。また、各疾患の評価、問題点の抽出、治療計画、治療手段について実習する。特に、作業療法の対象となる疾患・障害を持つクライエントに対する典型的な支援方法について学習し、障害者が日常生活へ適応するために必要な技術を習得する。併せて、代償方法や生活環境改善等についても学習する。作業遂行の動作的な側面のみならず、認知機能や心理社会的側面（興味、価値、不安、自信など）についても視野を広げて評価・介入することの意義を理解する。
			浅黄 真紀子	作業療法士	
			芝地 杏花	作業療法士	
作業療法総合演習	1	4	吉岡 和哉	作業療法士	これまで学習した作業療法の対象、評価法、介入法について、総合臨地実習Ⅰ及び総合臨地実習Ⅱでの経験を基に、今後職業として実践する作業療法について整理・統合するとともに、専門職としての作業療法士のあり方、作業療法研究の意味を確認する。
			村田 和香	作業療法士	
			石井 良和	作業療法士	
			竹原 敦	作業療法士	
			宮寺 寛子	作業療法士	
			馬場 順子	作業療法士	
			近藤 健	作業療法士	
			松嵜 由莉	作業療法士	
			石代 敏拓	作業療法士	
			浅黄 真紀子	作業療法士	
見学実習	2	2	宮寺 寛子	作業療法士	病院や施設で実際の作業療法の見学と観察を行い、作業療法の果たす役割と業務を理解し、作業療法学生としての倫理観を持ち、その後の学業のモチベーションを高める機会とする。また、患者や対象者と接する中で、障害を持つ方への理解を深める。
			村田 和香	作業療法士	
			石井 良和	作業療法士	
			竹原 敦	作業療法士	
			馬場 順子	作業療法士	
			吉岡 和哉	作業療法士	
			近藤 健	作業療法士	
			松嵜 由莉	作業療法士	
			石代 敏拓	作業療法士	
			浅黄 真紀子	作業療法士	
			芝地 杏花	作業療法士	
作業療法基礎実習Ⅰ	3	3	松嵜 由莉	作業療法士	本実習は身体障害領域、精神障害領域において各3週間実施される。学内で学んだ評価知識や技術を臨床の場において実践し、理解を深める実習である。臨床教育者と共に情報収集・面接・観察・検査測定から得られたデータを統合解釈することにより、対象者を総合的に理解し、解決すべき課題を明確化し作業療法計画を経験・立案することを目的とする。
			村田 和香	作業療法士	
			石井 良和	作業療法士	
			竹原 敦	作業療法士	
			宮寺 寛子	作業療法士	
			馬場 順子	作業療法士	
			吉岡 和哉	作業療法士	
			近藤 健	作業療法士	
			石代 敏拓	作業療法士	
			浅黄 真紀子	作業療法士	
			芝地 杏花	作業療法士	

≪リハビリテーション学部≫

実務経験のある教員による授業科目一覧【作業療法学科】

2025年度カリキュラム（2025年度）

授業科目	単位数	履修学年	担当教員	実務経験	講義内容
作業療法基礎実習Ⅱ	3	3	吉岡 和哉	作業療法士	本実習は身体障害領域、精神障害領域において各3週間実施される。学内で学んだ評価知識や技術を臨床の場において実践し、理解を深める実習である。臨床教育者と共に情報収集・面接・観察・検査測定から得られたデータを統合解釈することにより、対象者を総合的に理解し、解決すべき課題を明確化し作業療法計画を経験・立案することを目的とする。
			村田 和香	作業療法士	
			石井 良和	作業療法士	
			竹原 敦	作業療法士	
			宮寺 寛子	作業療法士	
			馬塲 順子	作業療法士	
			近藤 健	作業療法士	
			松嵜 由莉	作業療法士	
			石代 敏拓	作業療法士	
			浅黄 真紀子	作業療法士	
			芝地 杏花	作業療法士	
総合臨地実習Ⅰ	8	4	近藤 健	作業療法士	身体・精神・発達・老年の各領域における病院・施設等で2期にわたって行われる総合臨地実習は、本学における学習の総仕上げにあたるものである。学生は進路に合わせ、4領域から2領域を選択して実習に取り組む。学生は、総合臨地実習の場で臨地教育指導者の監督・指導のもとに個別に実習を行なう。具体的には対象者の評価、治療プログラムの立案と実施、業務の記録と方法、関連職種の人々との連携、作業療法部門の管理運営、専門職としての態度を学ぶ。各期８週間の実習と学内セミナーによって構成される。
			村田 和香	作業療法士	
			石井 良和	作業療法士	
			竹原 敦	作業療法士	
			宮寺 寛子	作業療法士	
			馬塲 順子	作業療法士	
			吉岡 和哉	作業療法士	
			松嵜 由莉	作業療法士	
			石代 敏拓	作業療法士	
			浅黄 真紀子	作業療法士	
			芝地 杏花	作業療法士	
総合臨地実習Ⅱ	8	4	馬塲 順子	作業療法士	身体・精神・発達・老年の各領域における病院・施設等で2期にわたって行われる総合臨地実習は、本学における学習の総仕上げにあたるものである。学生は進路に合わせ、4領域から2領域を選択して実習に取り組む。学生は、総合臨地実習の場で臨地教育指導者の監督・指導のもとに個別に実習を行なう。具体的には対象者の評価、治療プログラムの立案と実施、業務の記録と方法、関連職種の人々との連携、作業療法部門の管理運営、専門職としての態度を学ぶ。各期８週間の実習と学内セミナーによって構成される。
			村田 和香	作業療法士	
			石井 良和	作業療法士	
			竹原 敦	作業療法士	
			宮寺 寛子	作業療法士	
			吉岡 和哉	作業療法士	
			近藤 健	作業療法士	
			松嵜 由莉	作業療法士	
			石代 敏拓	作業療法士	
			浅黄 真紀子	作業療法士	
			芝地 杏花	作業療法士	
地域臨地実習	1	4	竹原 敦	作業療法士	地域作業療法学で学んだ知識や総合臨地実習の経験をふまえ、地域作業療法の現場を実際に見聞し、理念や役割について理解を深める。地域リハビリテーションの体制を知り、地域における作業療法及び作業療法士の役割と機能を学ぶ。具体的には、地域リハビリテーション体制、作業療法士の業務、訪問リハビリテーションや作業所、就労支援施設などの役割と作業療法の関わりについて学習する。
			村田 和香	作業療法士	
			石井 良和	作業療法士	
			宮寺 寛子	作業療法士	
			馬塲 順子	作業療法士	
			吉岡 和哉	作業療法士	
			近藤 健	作業療法士	
			松嵜 由莉	作業療法士	
			石代 敏拓	作業療法士	
			浅黄 真紀子	作業療法士	
			芝地 杏花	作業療法士	
合計単位数	37				

≪リハビリテーション学部≫

実務経験のある教員による授業科目一覧【作業療法学科】

2021年度カリキュラム（2025年度）

授業科目	単位数	履修学年	担当教員	実務経験	講義内容
基礎作業学演習	1	1	竹原 敦	作業療法士	基礎作業学の学びに基づき、作業の体験と作業分析の試み、作業分析レポート作成、事例を通した作業分析の実施をグループ発表により学ぶ。作業療法の手段である作業についての理解を深めるために、作業の意味、人と作業の関係等について学習する。また、作業の治療・援助への応用と理論的意義を学習し、対象者への指導方法を学ぶ。
			岡田 直純	作業療法士	
基礎作業学実習	1	2	松嵜 由莉	作業療法士	作業療法として用いられる代表的な手工芸や手段的日常生活活動について実習を通して、作業療法の治療手段の基礎知識と技術を習得し、様々な対象者に作業を適用するための理解を深める。さらに作業を遂行するために必要な、身体的、心理的、認知的機能を学ぶ。具体的には木工、陶芸、レザークラフト、絵画・美術、七宝焼き、園芸の準備から実施、片づけ、作品の鑑賞･評価までの一連の作業に加え、スポーツやレクリエーションを実際に行う中で、作業の意味を学ぶ。
			石代 敏拓	作業療法士	
			浅黄 真紀子	作業療法士	
			芝地 杏花	作業療法士	
作業療法学研究法演習	1	3	石井 良和	作業療法士	作業療法の研究に関して必要な事項や主要概念を理解し、文献を批判的に吟味しながら読めるようになるとともに、問題解決型学習法（Problem-Based Learning: PBL）をもちいて、実際に学生が研究に関連し、理解が不十分な問題を自ら選択して小グループで解決する中で作業療法学における研究の必要性と意義を学ぶ。
卒業研究	2	4	竹原 敦	作業療法士	教員が提示するいくつかの研究領域を選択し、講義や演習、調査・実験などを通じて研究テーマを選択し、最終的に研究論文を完成させる。将来研究を行う上で必要な知識、技術、態度を初歩的な研究実践を通して修得する。具体的な研究テーマを遂行するために必要な技術の一部、プレゼンテーション技法、学術論文の記述方法など、各教員の指導に基づき実践的に学習する。
			村田 和香	作業療法士	
			石井 良和	作業療法士	
			宮寺 寛子	作業療法士	
			馬塲 順子	作業療法士	
			吉岡 和哉	作業療法士	
			近藤 健	作業療法士	
			松嵜 由莉	作業療法士	
			石代 敏拓	作業療法士	
			浅黄 真紀子	作業療法士	
			芝地 杏花	作業療法士	
作業療法評価学演習	1	2	宮寺 寛子	作業療法士	作業療法の手段であり、行為者の行動目的の形成にもなる作業の形態と治療への適応方法の理解を深める。そのための作業分析、作業歴評価、作業遂行評価、環境の評価等の学習を通し作業機能障害を理解し、作業の意味と治療的価値を学習する。
			馬塲 順子	作業療法士	
			吉岡 和哉	作業療法士	
作業療法評価学実習	1	2	松嵜 由莉	作業療法士	身体機能及び精神機能、発達の視点に対する作業療法に用いられる評価について学習する。各評価項目についての理解、評価技法の修得、評価計画法、評価結果のまとめ方、評価結果に基づく治療・訓練・援助プログラムの立案等について、実習を通して学習する。
			石代 敏拓	作業療法士	
			芝地 杏花	作業療法士	
作業療法総合評価演習	1	3	松嵜 由莉	作業療法士	作業療法の対象となる典型的なクライエントに対する評価・支援計画を演習を通して学習する。事例をもとに、クライエントが現在置かれた状況やこれから望む生活、作業機能障害、心身機能・構造上の問題などを統合し、その人らしい生活の実現のために必要となる評価・支援を考える。
			石代 敏拓	作業療法士	
			浅黄 真紀子	作業療法士	
身体領域の作業療法学実習	1	3	近藤 健	作業療法士	身体障害領域の作業療法士として必要な実践的治療技術、ならびに対象理解のために不可欠である活動分析を通じた応用技術を幅広く実践的に学ぶ。とくに身体障害の作業療法における治療技術と援助方法の体系イメージを育み、具体的治療から援助方法について、学生相互の模擬演習を主体とした実践的形式から幅広く学ぶ。
			石代 敏拓	作業療法士	
			芝地 杏花	作業療法士	
精神領域の作業療法学実習	1	3	馬塲 順子	作業療法士	精神作業療法学を基礎として、作業療法の実践ができるように、作業療法技法の獲得を目標とする。主な学習内容は、治療方法（治療形態、回復段階に応じた対応等）、疾患別作業療法、地域での精神科リハビリテ-ションにおける作業療法の役割、リスク管理である。
			浅黄 真紀子	作業療法士	

≪リハビリテーション学部≫

実務経験のある教員による授業科目一覧【作業療法学科】

2021年度カリキュラム（2025年度）

授業科目	単位数	履修学年	担当教員	実務経験	講義内容
発達領域の作業療法学演習	1	3	吉岡 和哉	作業療法士	発達領域の作業療法学での学習に基づき、各疾患・障害に対する作業療法を学ぶ。各疾患・障害に対する作業療法の実際を知り、実際に遊具の作成と活動分析を行った上でオリジナルプログラムを立案することを修得する。具体的には自閉症や注意欠如多動症、脳性まひ、知的障害、重症心身障害、摂食障害、被虐待児、進行性筋ジストロフィーの各事例を通して学ぶ。さらに対象となる子供が利用している病院や施設にて実施し評価の実際を学ぶ。
日常生活活動学実習	1	3	宮寺 寛子	作業療法士	日常生活活動学での学びに基づき、日常生活活動の分析方法、評価法、指導法等の技法原理を、実習を通して学習する。また、各疾患の評価、問題点の抽出、治療計画、治療手段について実習する。特に、作業療法の対象となる疾患・障害を持つクライエントに対する典型的な支援方法について学習し、障害者が日常生活へ適応するために必要な技術を習得する。併せて、代償方法や生活環境改善等についても学習する。作業遂行の動作的な側面のみならず、認知機能や心理社会的側面（興味、価値、不安、自信など）についても視野を広げて評価・介入することの意義を理解する。
			浅黄 真紀子	作業療法士	
			芝地 杏花	作業療法士	
作業療法総合演習	1	4	吉岡 和哉	作業療法士	これまで学習した作業療法の対象、評価法、介入法について、総合臨地実習Ⅰ及び総合臨地実習Ⅱでの経験を基に、今後職業として実践する作業療法について整理・統合するとともに、専門職としての作業療法士のあり方、作業療法研究の意味を確認する。
			村田 和香	作業療法士	
			石井 良和	作業療法士	
			竹原 敦	作業療法士	
			宮寺 寛子	作業療法士	
			馬塲 順子	作業療法士	
			近藤 健	作業療法士	
			松嵜 由莉	作業療法士	
			浅黄 真紀子	作業療法士	
			芝地 杏花	作業療法士	
見学実習	2	2	宮寺 寛子	作業療法士	病院や施設で実際の作業療法の見学と観察を行い、作業療法の果たす役割と業務を理解し、作業療法学生としての倫理観を持ち、その後の学業のモチベーションを高める機会とする。また、患者や対象者と接する中で、障害を持つ方への理解を深める。
			村田 和香	作業療法士	
			石井 良和	作業療法士	
			竹原 敦	作業療法士	
			馬塲 順子	作業療法士	
			吉岡 和哉	作業療法士	
			近藤 健	作業療法士	
			松嵜 由莉	作業療法士	
			石代 敏拓	作業療法士	
			浅黄 真紀子	作業療法士	
			芝地 杏花	作業療法士	
作業療法基礎実習Ⅰ	3	3	松嵜 由莉	作業療法士	本実習は身体障害領域、精神障害領域において各3週間実施される。学内で学んだ評価知識や技術を臨床の場において実践し、理解を深める実習である。臨床教育者と共に情報収集・面接・観察・検査測定から得られたデータを統合解釈することにより、対象者を総合的に理解し、解決すべき課題を明確化し作業療法計画を経験・立案することを目的とする。
			村田 和香	作業療法士	
			石井 良和	作業療法士	
			竹原 敦	作業療法士	
			宮寺 寛子	作業療法士	
			馬塲 順子	作業療法士	
			吉岡 和哉	作業療法士	
			近藤 健	作業療法士	
			石代 敏拓	作業療法士	
			浅黄 真紀子	作業療法士	
			芝地 杏花	作業療法士	

≪リハビリテーション学部≫

実務経験のある教員による授業科目一覧【作業療法学科】

2021年度カリキュラム（2025年度）

授業科目	単位数	履修学年	担当教員	実務経験	講義内容
作業療法基礎実習Ⅱ	3	3	吉岡 和哉	作業療法士	本実習は身体障害領域、精神障害領域において各3週間実施される。学内で学んだ評価知識や技術を臨床の場において実践し、理解を深める実習である。臨床教育者と共に情報収集・面接・観察・検査測定から得られたデータを統合解釈することにより、対象者を総合的に理解し、解決すべき課題を明確化し作業療法計画を経験・立案することを目的とする。
			村田 和香	作業療法士	
			石井 良和	作業療法士	
			竹原 敦	作業療法士	
			宮寺 寛子	作業療法士	
			馬塲 順子	作業療法士	
			近藤 健	作業療法士	
			松嵜 由莉	作業療法士	
			石代 敏拓	作業療法士	
			浅黄 真紀子	作業療法士	
			芝地 杏花	作業療法士	
総合臨地実習Ⅰ	8	4	近藤 健	作業療法士	身体・精神・発達・老年の各領域における病院・施設等で2期にわたって行われる総合臨地実習は、本学における学習の総仕上げにあたるものである。学生は進路に合わせ、4領域から2領域を選択して実習に取り組む。学生は、総合臨地実習の場で臨地教育指導者の監督・指導のもとに個別に実習を行なう。具体的には対象者の評価、治療プログラムの立案と実施、業務の記録と方法、関連職種の人々との連携、作業療法部門の管理運営、専門職としての態度を学ぶ。各期８週間の実習と学内セミナーによって構成される。
			村田 和香	作業療法士	
			石井 良和	作業療法士	
			竹原 敦	作業療法士	
			宮寺 寛子	作業療法士	
			馬塲 順子	作業療法士	
			吉岡 和哉	作業療法士	
			松嵜 由莉	作業療法士	
			石代 敏拓	作業療法士	
			浅黄 真紀子	作業療法士	
			芝地 杏花	作業療法士	
総合臨地実習Ⅱ	8	4	馬塲 順子	作業療法士	身体・精神・発達・老年の各領域における病院・施設等で2期にわたって行われる総合臨地実習は、本学における学習の総仕上げにあたるものである。学生は進路に合わせ、4領域から2領域を選択して実習に取り組む。学生は、総合臨地実習の場で臨地教育指導者の監督・指導のもとに個別に実習を行なう。具体的には対象者の評価、治療プログラムの立案と実施、業務の記録と方法、関連職種の人々との連携、作業療法部門の管理運営、専門職としての態度を学ぶ。各期８週間の実習と学内セミナーによって構成される。
			村田 和香	作業療法士	
			石井 良和	作業療法士	
			竹原 敦	作業療法士	
			宮寺 寛子	作業療法士	
			吉岡 和哉	作業療法士	
			近藤 健	作業療法士	
			松嵜 由莉	作業療法士	
			石代 敏拓	作業療法士	
			浅黄 真紀子	作業療法士	
			芝地 杏花	作業療法士	
地域臨地実習	1	4	竹原 敦	作業療法士	地域作業療法学で学んだ知識や総合臨地実習の経験をふまえ、地域作業療法の現場を実際に見聞し、理念や役割について理解を深める。地域リハビリテーションの体制を知り、地域における作業療法及び作業療法士の役割と機能を学ぶ。具体的には、地域リハビリテーション体制、作業療法士の業務、訪問リハビリテーションや作業所、就労支援施設などの役割と作業療法の関わりについて学習する。
			村田 和香	作業療法士	
			石井 良和	作業療法士	
			宮寺 寛子	作業療法士	
			馬塲 順子	作業療法士	
			吉岡 和哉	作業療法士	
			近藤 健	作業療法士	
			松嵜 由莉	作業療法士	
			石代 敏拓	作業療法士	
			浅黄 真紀子	作業療法士	
			芝地 杏花	作業療法士	
合計単位数	38				

≪リハビリテーション学部≫

実務経験のある教員による授業科目一覧【言語聴覚学科】

2025年度カリキュラム（2025年度）

授業科目	単位数	履修学年	担当教員	実務経験	講義内容
聴覚障害演習	2	3	岡野 由実	言語聴覚士	次の聴覚障害に関する項目について演習形式で学ぶ。標準純音、語音聴力検査、COR、ピープショウ検査、BOA検査などの各種聴覚検査、検査手順の習熟と結果の評価、補聴器フィッティング及び人工内耳マッピング、幼児聴能及び言語訓練演習、成人聴能訓練とコミュニケーション確保訓練、聴覚障害の構音訓練。
			齊藤 吉人	言語聴覚士	
			遠藤 俊介	言語聴覚士	
運動系障害演習	2	3	石山 寿子	言語聴覚士	言語系障害演習と聴覚障害演習で得られた知識・技能を用い、検査、評価、診断、方針決定、訓練手技の適応、環境調整、社会参加の支援までを一貫して演習形式で学ぶ。それまでの知識や技術の統合を目的とする。
			酒井 哲郎	言語聴覚士	
言語系障害演習	2	3	鈴木 倫	言語聴覚士	言語障害に関する次の項目について演習形式で学ぶ。失語症、高次脳機能検査、発達検査、構音検査、吃音検査など各種言語検査。さらに、検査手順の習熟と結果の評価、訓練プログラムの立案、言語訓練、構音訓練、発声訓練、吃音訓練などの各種訓練法を学ぶ。
			酒井 哲郎	言語聴覚士	
小児系障害演習	2	3	齊藤 吉人	言語聴覚士	聴覚障害、運動系障害、言語系障害の各論に制約されず、各障害類型に共通する小児に特化する臨床上の特徴や課題、スキルなどを演習形式で学ぶ。おもちゃを含む教材の創造的使用やスキルも演習する。
			白坂 康俊	言語聴覚士	
			遠藤 俊介	言語聴覚士	
言語聴覚総合演習	2	4	酒井 哲郎	言語聴覚士	これまでの学習した言語聴覚療法の対象、評価法、支援法について、評価実習、統合実習での経験を基に、言語聴覚療法の基礎、及び各専門分野の総合的な復習と、知識技術の統合を行う。また、今後職業として実践する言語聴覚療法について整理・統合するとともに、専門職としての言語聴覚士のあり方、言語聴覚療法研究の意味を確認する。
			白坂 康俊	言語聴覚士	
			齊藤 吉人	言語聴覚士	
			遠藤 俊介	言語聴覚士	
卒業研究	2	4	白坂 康俊	言語聴覚士	卒業後、自ら研究する姿勢と能力を養うことを目的に、専門科目担当教員の指導の下、テーマを定めて研究に取り組む。具体的には、研究の必要性の理解、研究課題の設定、文献検索、具体的研究テーマと目的の設定、研究方法の選択（実験研究、臨床研究）、倫理的配慮、研究計画書の作成、データの収集・集計・分析・考察、論文作成を内容とする。
			齊藤 吉人	言語聴覚士	
			石山 寿子	言語聴覚士	
			岡野 由実	言語聴覚士	
			遠藤 俊介	言語聴覚士	
			鈴木 倫	言語聴覚士	
			及川 翔	言語聴覚士	
			酒井 哲郎	言語聴覚士	
見学実習	3	2	齊藤 吉人	言語聴覚士	言語聴覚療法対象者がいる施設にて臨床実習指導者の指導・監督の下、臨床実習指導者が行う言語聴覚療法を見学する。言語聴覚療法の実践場面の見学により、言語聴覚士として座学で学んだ知識・技術を臨床場面での実践と結びつけることを目的とする。加えて、社会人としての適切な振舞い以外に、医療従事者としての患者・利用者を中心に据える姿勢・責任感を学ぶ。
			白坂 康俊	言語聴覚士	
			石山 寿子	言語聴覚士	
			岡野 由実	言語聴覚士	
			遠藤 俊介	言語聴覚士	
			鈴木 倫	言語聴覚士	
			及川 翔	言語聴覚士	
			酒井 哲郎	言語聴覚士	
評価実習	5	3	白坂 康俊	言語聴覚士	言語聴覚療法対象者がいる施設にて指導者の指導・監督の下、指導者が行う言語聴覚療法を見学あるいは一部実施する。対象者の身体・行動の観察、情報の収集、病歴（障害歴）記述、検査の実施と所見記述、言語聴覚や摂食嚥下の問題点の列挙と明確化ができるようになることを目的とし、さらにそれらに基づいて言語聴覚療法訓練の目標設定を行うことを試みる。
			齊藤 吉人	言語聴覚士	
			石山 寿子	言語聴覚士	
			岡野 由実	言語聴覚士	
			遠藤 俊介	言語聴覚士	
			鈴木 倫	言語聴覚士	
			及川 翔	言語聴覚士	
			酒井 哲郎	言語聴覚士	
総合臨床実習	7	4	白坂 康俊	言語聴覚士	3年次までに学習した知識や技術をベースに、外部臨床実習施設にて実際の臨床場面で言語聴覚士の役割、臨床で必要な最小限の知識ならびに技能を学ぶことを目的とし、以下の学習を体験する。1)適切な記録の取り方や報告の仕方を学ぶ。2)言語聴覚療法に係る検査の実施を含む評価、情報収集の実際を学ぶ。3)問題点を抽出し、言語聴覚療法におけるリハビリテーションの計画の立案・実践を学ぶ。4)言語聴覚士としての臨床を行う意欲を高める。5)言語聴覚療法の対象者やその家族、多職種との良好なコミュニケーション態度を身に付ける。
			齊藤 吉人	言語聴覚士	
			石山 寿子	言語聴覚士	
			岡野 由実	言語聴覚士	
			遠藤 俊介	言語聴覚士	
			鈴木 倫	言語聴覚士	
			及川 翔	言語聴覚士	
			酒井 哲郎	言語聴覚士	
合計単位数	27				

≪リハビリテーション学部≫

実務経験のある教員による授業科目一覧【言語聴覚学科】

2021年度カリキュラム（2025年度）

授業科目	単位数	履修学年	担当教員	実務経験	講義内容
言語聴覚障害学演習	1	1	神山 政恵	言語聴覚士	肢体障害、視覚障害、聴覚障害、言語系障害、発語障害、摂食・嚥下障害の疑似体験を演習する。日常生活から地域・社会参加の困難を体験し、障害を持つ対象者の苦痛や不自由さについて話を聞き、自ら模擬体験することにより、障害を持つ対象者のニーズを深く理解する。
			白坂 康俊	言語聴覚士	
			齊藤 吉人	言語聴覚士	
			三浦 康子	言語聴覚士	
			丹下 弥生	言語聴覚士	
			岡野 由実	言語聴覚士	
			遠藤 俊介	言語聴覚士	
			及川 翔	言語聴覚士	
			酒井 哲郎	言語聴覚士	
地域参加支援演習Ⅰ	2	2	齊藤 吉人	言語聴覚士	自立ならびに、健常者と同じ地域社会への参加の実現をめざし、受け入れる社会の在り方を考える。言語聴覚士が、コミュニケーションや摂食嚥下についての専門性を生かして地域づくり、街づくりをすることの重要性と方法論を学習する。グループ単位で、情報収集、企画立案を行い、教員がアドバイザーとして参加する。
			白坂 康俊	言語聴覚士	
			石山 寿子	言語聴覚士	
			岡野 由実	言語聴覚士	
			遠藤 俊介	言語聴覚士	
			鈴木 倫	言語聴覚士	
			及川 翔	言語聴覚士	
			酒井 哲郎	言語聴覚士	
地域参加支援演習Ⅱ	2	3	齊藤 吉人	言語聴覚士	「地域参加支援演習Ⅰ」の結果を踏まえ、実際に学生がグループ単位で、障害を持つことを含む社会的に弱い立場の人たちが、社会や地域に参加するための事業を企画し、実践する。ここでは、当事者と支援者である言語聴覚士だけではなく、地域で実際に生活する一般の人たちと連携しながら相互に相談し、計画を立て、運営することにより、連携の難しさ、それを克服する運営の方法を知り、実現することによる達成感を体験する。
			白坂 康俊	言語聴覚士	
			石山 寿子	言語聴覚士	
			岡野 由実	言語聴覚士	
			遠藤 俊介	言語聴覚士	
			鈴木 倫	言語聴覚士	
			及川 翔	言語聴覚士	
			酒井 哲郎	言語聴覚士	
聴覚障害演習	2	3	岡野 由実	言語聴覚士	次の聴覚障害に関する項目について演習形式で学ぶ。標準純音、語音聴力検査、COR、ピープショウ検査、BOA検査などの各種聴覚検査、検査手順の習熟と結果の評価、補聴器フィッティング及び人工内耳マッピング、幼児聴能及び言語訓練演習、成人聴能訓練とコミュニケーション確保訓練、聴覚障害の構音訓練。
			齊藤 吉人	言語聴覚士	
			遠藤 俊介	言語聴覚士	
運動系障害演習	2	3	石山 寿子	言語聴覚士	言語系障害演習と聴覚障害演習で得られた知識・技能を用い、検査、評価、診断、方針決定、訓練手技の適応、環境調整、社会参加の支援までを一貫して演習形式で学ぶ。それまでの知識や技術の統合を目的とする。
			酒井 哲郎	言語聴覚士	
言語系障害演習	2	3	鈴木 倫	言語聴覚士	言語障害に関する次の項目について演習形式で学ぶ。失語症、高次脳機能検査、発達検査、構音検査、吃音検査など各種言語検査。さらに、検査手順の習熟と結果の評価、訓練プログラムの立案、言語訓練、構音訓練、発声訓練、吃音訓練などの各種訓練法を学ぶ。
			及川 翔	言語聴覚士	
			酒井 哲郎	言語聴覚士	
小児系障害演習	2	3	齊藤 吉人	言語聴覚士	聴覚障害、運動系障害、言語系障害の各論に制約されず、各障害類型に共通する小児に特化する臨床上の特徴や課題、スキルなどを演習形式で学ぶ。おもちゃを含む教材の創造的使用やスキルも演習する。
			遠藤 俊介	言語聴覚士	
卒業研究	3	3	白坂 康俊	言語聴覚士	卒業後、自ら研究する姿勢と能力を養うことを目的に、専門科目担当教員の指導の下、テーマを定めて研究に取り組む。具体的には、研究の必要性の理解、研究課題の設定、文献検索、具体的研究テーマと目的の設定、研究方法の選択（実験研究、臨床研究）、倫理的配慮、研究計画書の作成、データの収集・集計・分析・考察、論文作成を内容とする。
			齊藤 吉人	言語聴覚士	
			石山 寿子	言語聴覚士	
			岡野 由実	言語聴覚士	
			遠藤 俊介	言語聴覚士	
			鈴木 倫	言語聴覚士	
			及川 翔	言語聴覚士	
			酒井 哲郎	言語聴覚士	

≪リハビリテーション学部≫

実務経験のある教員による授業科目一覧【言語聴覚学科】

2021年度カリキュラム（2025年度）

授業科目	単位数	履修学年	担当教員	実務経験	講義内容
見学実習	1	1	齊藤 吉人	言語聴覚士	言語聴覚療法対象者がいる施設にて臨床実習指導者の指導・監督の下、臨床実習指導者が行う言語聴覚療法を見学する。言語聴覚療法の実践場面の見学により、言語聴覚士として座学で学んだ知識・技術を臨床場面での実践と結びつけることを目的とする。加えて、社会人としての適切な振舞い以外に、医療従事者としての患者・利用者を中心に据える姿勢・責任感を学ぶ。
			白坂 康俊	言語聴覚士	
			神山 政恵	言語聴覚士	
			三浦 康子	言語聴覚士	
			丹下 弥生	言語聴覚士	
			岡野 由実	言語聴覚士	
			遠藤 俊介	言語聴覚士	
			及川 翔	言語聴覚士	
			酒井 哲郎	言語聴覚士	
観察実習	3	2	齊藤 吉人	言語聴覚士	言語聴覚療法対象者がいる施設にて臨床実習指導者の指導・監督の下、臨床実習指導者が行う言語聴覚療法を観察あるいは一部実施する。対象者の情報と心身の状態や行動の観察を行い、疾患による言語聴覚や摂食嚥下への影響（病態）を考え、病歴（障害歴）を適切な表現を用いて記述できるようになることを目的とする。さらに、対象者との会話を通して、対象者の全体像を把握し、情報を収集する。
			白坂 康俊	言語聴覚士	
			石山 寿子	言語聴覚士	
			岡野 由実	言語聴覚士	
			遠藤 俊介	言語聴覚士	
			鈴木 倫	言語聴覚士	
			及川 翔	言語聴覚士	
			酒井 哲郎	言語聴覚士	
評価実習	6	3	白坂 康俊	言語聴覚士	言語聴覚療法対象者がいる施設にて指導者の指導・監督の下、指導者が行う言語聴覚療法を見学あるいは一部実施する。対象者の身体・行動の観察、情報の収集、病歴（障害歴）記述、検査の実施と所見記述、言語聴覚や摂食嚥下の問題点の列挙と明確化ができるようになることを目的とし、さらにそれらに基づいて言語聴覚療法訓練の目標設定を行うことを試みる。
			齊藤 吉人	言語聴覚士	
			石山 寿子	言語聴覚士	
			岡野 由実	言語聴覚士	
			遠藤 俊介	言語聴覚士	
			鈴木 倫	言語聴覚士	
			及川 翔	言語聴覚士	
			酒井 哲郎	言語聴覚士	
統合実習	6	4	白坂 康俊	言語聴覚士	3年次までに学習した知識や技術をベースに、外部臨床実習施設にて実際の臨床場面で言語聴覚士の役割、臨床で必要な最小限の知識ならびに技能を学ぶことを目的とし、以下の学習を体験する。1)適切な記録の取り方や報告の仕方を学ぶ。2)言語聴覚療法に係る検査の実施を含む評価、情報収集の実際を学ぶ。3)問題点を抽出し、言語聴覚療法におけるリハビリテーションの計画の立案・実践を学ぶ。4)言語聴覚士としての臨床を行う意欲を高める。5)言語聴覚療法の対象者やその家族、多職種との良好なコミュニケーション態度を身に付ける。
			齊藤 吉人	言語聴覚士	
			石山 寿子	言語聴覚士	
			岡野 由実	言語聴覚士	
			遠藤 俊介	言語聴覚士	
			鈴木 倫	言語聴覚士	
			及川 翔	言語聴覚士	
			酒井 哲郎	言語聴覚士	
合計単位数	32				

≪医療技術学部≫

実務経験のある教員による授業科目一覧【検査技術学科】

2022年度カリキュラム（2025年度）

授業科目	単位数	履修学年	担当教員	実務経験	授業内容
生殖医療技術学	1	2	荒木 泰行	胚培養士	生殖医療はヒト両配偶子(精子、卵子)に始まり、受精、受精卵(胚)の発生、着床、妊娠、分娩、老化という全生涯過程に関わるものであるが、特に、生殖医療技術の根幹は、両配偶子の発生、受精および受精卵(胚)発生のメカニズムを基礎学問として学び、ヒト生殖医療に貢献するためには、その学問を臨床に応用すべき実践技術を学ばなければならない。具体的には、両配偶子(精子、卵子)の取り扱い、精液検査（量、運動率、形態評価）、卵子の形態評価と培養法、体外培養技術の実際、顕微授精技術の実際、受精卵（胚）移植の介助等である。
血液検査学実習	2	3	林 由里子	臨床検査技師	血液検査学で学んだ知識をもとに、血液形態および止血に関する検査手技の習得と、検査法の臨床的意義の理解、基本的手技と診断上の重要性を体得させる。実習では、血液学的検査法および止血・凝固学的検査法のうち、基本となる項目について学ぶ。臨床検査室の現状は、この領域においても自動化測定法がほとんどであるが、基本となる用手法を習得することは必須であり同時に、機器法への理解を深める。また、病院検査室での実践に必要な知識。実践能力を身につける。
医動物学実習	1	1	石垣 宏尚	臨床検査技師	本邦においては寄生虫・原虫・衛生動物による感染は稀となったが、未だ蟯虫感染症は本邦を含む先進国でも根絶できない寄生虫である。また、東南アジア、アフリカ、中南米の途上国では今日においても熱帯熱マラリアは多数の患者・死者を出す原因原虫となっており、医動物学は輸入感染症としても重要である。したがつて、蟯虫をはじめとする線虫類、吸虫類、条虫類、マラリア原虫をはじめとする原虫および衛生動物の分布と疫学を知り、その生活史と感染経路を学ぶ。
免疫検査技術学実習	2	3	高橋 克典	臨床検査技師	免疫検査学で学んだ抗原抗体反応などの免疫血清学の基礎理論、および免疫学的分析法の基礎知識をもとに、各種抗原抗体反応を応用した実習を行い、測定意義、および測定結果の考え方、病態との関連性などについて学ぶ。具体的には、感染症、自己免疫疾患、免疫不全症などの各疾患を診断するための各種免疫検査法について、患者血清等の材料を用いて沈降反応、凝集反応、酵素免疫測定法、間接蛍光抗体法、免疫電気泳動法、イムノブロット等の実習を行う。
臨床化学検査学実習	2	3	石垣 宏尚	臨床検査技師	臨床検査において、採血への準備から検体が測定者に届くまでの過程を経験し、検体検査の一連のながれを理解できるようにする。 また自らの検体を測定して、検体の経時変化、自動化法と用手法の比較、同時再現性について学び理解する。実際の測定では、比色法とUV法による終末点法、酵素活性の測定、電気泳動法等を用手法で行った後、自動化法を行い、ランダムアクセス機能を理解する。また、小型のドライケミストリー装置にも触れ、緊急検査やベッドサイド検査への有用性についても学習する。
			松下 誠	臨床検査技師	
輸血検査学実習	2	3	高橋 あゆ子	臨床検査技師	輸血療法に関する基本的な原理を理解し、輸血前検査において重要なABO・Rh血液型検査、不規則抗体検査、交差適合試験の手技を学ぶ。また、交差適合試験陽性例における血液製剤の選択方法や各血液製剤の保管方法や取り扱いに関して学び、臨床現場における輸血療法の実践的な知識や技術を身につける。
			林 由里子	臨床検査技師	
臨床検査学総合演習Ⅰ	2	3	松下 誠	臨床検査技師	臨床検査学は、幅広い基礎医学の系統的な学問でもある。4年間の教育において、臨床化学検査、免疫血清検査、血液検査、微生物検査、病理検査の他、生理機能検査、画像検査などの医学検査の相当な分野を修得する。これらの科目の習得は独立しているために科目相互の横断的理解が十分でない。そこで、3年次前期までに履修した専門科目群について科目相互のつながりを理解し、さらに基本的かつ先進的な内容を含む重要事項を整理・習得する。
			古田島 伸雄	臨床検査技師	
			高橋 克典	臨床検査技師	
			林 由里子	臨床検査技師	
			石垣 宏尚	臨床検査技師	
			澤田 裕也	臨床検査技師	
総合実習 (臨地実習前技能評価)	1	3	松下 誠	臨床検査技師	客観的臨床能力試験（Objective Structured Clinical Exanimation; OSCE）では、臨地実習に必要とされる技能・態度を備えていることを実技試験等により確認する。臨地実習に必要な血液学検査、病理学検査、尿・糞便検査、生化学検査・免疫学検査、遺伝子関連・染色体検査、輸血・移植検査、微生物学検査、生理学検査等の基本的検査手技を確認し、所見や結果を解釈できることにより、臨床検査技師として必要な知識を整理する。
			亀子 光明	臨床検査技師	
			古田島 伸雄	臨床検査技師	
			高橋 克典	臨床検査技師	
			林 由里子	臨床検査技師	
			石垣 宏尚	臨床検査技師	
			澤田 裕也	臨床検査技師	
			高橋 あゆ子	臨床検査技師	

≪医療技術学部≫

実務経験のある教員による授業科目一覧【検査技術学科】

2022年度カリキュラム（2025年度）

授業科目	単位数	履修学年	担当教員	実務経験	授業内容
臨地実習	11	4	松下 誠	臨床検査技師	臨床検査の現場を実際に経験し、臨床検査技師として不可欠な臨床検査の基本的な実践技術を経験し、検体採取から結果報告までの一連の業務の流れを認識する。また、臨床に提供する臨床検査情報の意義、精度管理の必要性、さらには検査研究の重要さを認識するために、疾患に対して興味を持ち、提供する検査情報から病態解析へのアプローチを身につけ、医学・医療の専門職そして医療チームの一員として、医療の中における臨床検査および臨床検査技師の役割と責任を知る。
			亀子 光明	臨床検査技師	
			古田島 伸雄	臨床検査技師	
			高橋 克典	臨床検査技師	
			林 由里子	臨床検査技師	
			石垣 宏尚	臨床検査技師	
			澤田 裕也	臨床検査技師	
			高橋 あゆ子	臨床検査技師	
合計単位数	24				

≪医療技術学部≫

実務経験のある教員による授業科目一覧【放射線学科】　　2022年度カリキュラム（2025年度）

授業科目	単位数	履修学年	担当教員	実務経験	授業内容
診療放射線学導入実習	1	2	茂木 俊一	診療放射線技師	診療放射線学概論や診療画像検査学概論で学んだ知識をもとに、診療放射線技師の業務内容、医療施設における役割、専門職の機能、チーム医療の重要性、患者との相互行為、コミュんケーションを理解するため、診療放射線技師の働く臨床施設において見学実習を行う。 また、地域における医療施設の役割、病院の成り立ち、地域住民からの期待、保健医療福祉の現状について考察する。
			渡邉 浩	診療放射線技師	
			西澤 徹	診療放射線技師	
			加藤 英樹	診療放射線技師	
			渡邉 城大	診療放射線技師	
			星野 洋満	診療放射線技師	
			櫻井 典子	診療放射線技師	
			土田 拓治	診療放射線技師	
			今尾 仁	診療放射線技師	
			島崎 綾子	診療放射線技師	
診療放射線学直前実習	1	3	茂木 俊一	診療放射線技師	本科目は、実習病院で行う「臨床実習」を履修するにあたり、実習の目的、意義を明確にし、臨床に必要な最低限の知識・技能及び医療人・社会人としての常識を確認することを目的とする。様々な医療行為・医療業務が理解できる能力を培い、自己学習を促進するための学習姿勢を涵養する。具体的には、社会人としての礼儀作法から自職種、他職種の業務内容を理解し、医療専門職としてのコミュニケーション、患者に対する接遇について学ぶ。
			渡邉 浩	診療放射線技師	
			西澤 徹	診療放射線技師	
			加藤 英樹	診療放射線技師	
			渡邉 城大	診療放射線技師	
			星野 洋満	診療放射線技師	
			櫻井 典子	診療放射線技師	
			土田 拓治	診療放射線技師	
			今尾 仁	診療放射線技師	
			島崎 綾子	診療放射線技師	
診療放射線学総合臨床実習	2	4	西澤 徹	診療放射線技師	これまで臨床実習で学んできた診療放射線学及び臨床実習の総まとめとして診療放射線技師に必要な臨床実践能力を学ぶ。専門科目で学んだ知識を臨床現場において、主体的に実践することの意義とその方法について学ぶ。また、チーム医療や医療安全、読影の補助など、医療職に求められる臨床能力や、調整等の重要性を学ぶ。具体的には、実習期間中に学んだ諸知識の中から問題点を取り上げ、その問題点を解決する方法について検討し、ディスカッションを通して、協働の意義を理解する。
			星野 洋満	診療放射線技師	
			島崎 綾子	診療放射線技師	
診療画像解析学演習	1	4	今尾 仁	診療放射線技師	診療画像解析学の諸科目で習得した知識・技術を基に、診療画像解析学の実践を体験することにより、診療画像解析学に必要とされる知識及び技術を統合し、診療画像領域における診療放射線技師の役割を理解する。また、検査を展開しながら対象を取り巻く内・外的環境に関しての様々な知識及び態度を学び、実践に則した診療画像解析学について学習する。さらに、画像技術を取り巻く環境や他職種との連携の重要性も実践を通して理解する。
			茂木 俊一	診療放射線技師	
			渡邉 城大	診療放射線技師	
診療画像解析学実習Ⅰ	1	3	加藤 英樹	診療放射線技師	放射線画像検査におけるX線撮影やMRI、超音波検査の具体的な方法を実習をとおして学ぶ。診療画像解析学の領域で撮影技術の基礎的実践と理解を深めるために実施する実習であり、X線撮影における防護の理解、最適な画像を得るための手法、受診者への対応などをファントームを用いた実習を行う。また、画像読影、画質評価、受診者[患者]への接遇とコミュニケーションを学ぶ。
			茂木 俊一	診療放射線技師	
			渡邉 城大	診療放射線技師	
診療画像解析学実習Ⅱ	1	3	今尾 仁	診療放射線技師	放射線画像検査におけるX線撮影やMRI、超音波検査の具体的な方法を実習をとおして学ぶ。診療画像解析学の領域で撮影技術の基礎的実践と理解を深めるために実施する実習であり、X線撮影における防護の理解、最適な画像を得るための手法、受診者への対応などをファントームを用いた実習を行う。また、画像読影、画質評価、受診者[患者]への接遇とコミュニケーションを学ぶ。
			櫻井 典子	診療放射線技師	
			土田 拓治	診療放射線技師	
診療画像解析学実習Ⅲ	1	3	渡邉 城大	診療放射線技師	放射線画像検査におけるX線撮影やMRI、超音波検査の具体的な方法を実習をとおして学ぶ。診療画像解析学の領域で撮影技術の基礎的実践と理解を深めるために実施する実習であり、X線撮影における防護の理解、最適な画像を得るための手法、受診者への対応などをファントームを用いた実習を行う。また、画像読影、画質評価、受診者[患者]への接遇とコミュニケーションを学ぶ。
			加藤 英樹	診療放射線技師	
			茂木 俊一	診療放射線技師	
			櫻井 典子	診療放射線技師	
			土田 拓治	診療放射線技師	
			今尾 仁	診療放射線技師	

≪医療技術学部≫

実務経験のある教員による授業科目一覧【放射線学科】

2022年度カリキュラム（2025年度）

授業科目	単位数	履修学年	担当教員	実務経験	授業内容
診療画像解析学臨床実習Ⅰ	2	4	茂木 俊一	診療放射線技師	診療画像解析学の諸科目で習得した知識・技術を基に医療施設において診療画像解析学の実践を体験することにより、診療画像解析学に必要とされる知識及び技術、患者接遇を統合し、診療画像領域における診療放射線技師の役割を理解する。また、検査を展開しながら対象を取り巻く内・外的環境に関しての様々な知識を学び、実践に則した診療画像解析学について学習する。さらに、診療画像解析を取り巻く環境や他職種との連携の重要性も実践を通して理解する。
			今尾 仁	診療放射線技師	
			島崎 綾子	診療放射線技師	
診療画像解析学臨床実習Ⅱ	2	4	茂木 俊一	診療放射線技師	これまで学内で学んできた診療画像解析学の諸科目を基礎として、血管造影、X線CT、MRI、超音波検査、眼底検査に関する各機器の取扱い法や撮影技術、画像評価、データ処理について学ぶ。また、これらの検査は技師と患者との対応だけではないため、医師、看護師、コ・メディカルの連携を知る機会であることを自覚する。
			今尾 仁	診療放射線技師	
			島崎 綾子	診療放射線技師	
核医学検査技術学演習	1	4	渡邉 浩	診療放射線技師	「核医学検査技術学Ⅰ・Ⅱ」及び「核医学機器工学」等で学んだことを基に総合的に演習を行い、診療放射線技師としての基本的知識のまとめと問題解決能力を養う。具体的には、SPECT検査の定量性向上を目的とした収集法・画像再構成法・解析法やコンパートメントモデル解析、デコンボリューション解析の概念を学習し、シミュレーション等の演習を行う。
核医学検査技術学実習	1	3	渡邉 浩	診療放射線技師	核医学検査技術学の諸科目で得られた基礎知識により、装置の保守管理・性能試験の実習を通して学習する。性能試験方法は関連する協会・学会・委員会が種々の方法を提案し、規格勧告として公表している。具体的には、画像の処理技術、ガンマカメラについては計数特性、直線性、均一性、分解能、SPECT（コリメータ）については空間分解能、感度不均一性、データ収集法による画質の変化、データ処理法による画質の変化等について学習する。
			土田 拓治	診療放射線技師	
			島崎 綾子	診療放射線技師	
核医学検査技術学臨床実習	2	4	渡邉 浩	診療放射線技師	これまで学内で学んできた核医学検査技術学の諸科目などを基礎として、臨床現場における放射性医薬品の取扱い法、診療画像機器の操作・取扱い法、データ処理、RI廃棄物の取扱い手法について学ぶ。また、検査を展開しながら対象を取り巻く内・外的環境に関しての様々な知識及び態度を学び、実践に則した核医学検査技術学について学習する。また、他職種との連携の重要性も実践を通して理解する。
			星野 洋満	診療放射線技師	
			島崎 綾子	診療放射線技師	
放射線治療技術学演習	1	4	星野 洋満	診療放射線技師	「放射線治療技術学Ⅰ・Ⅱ」で学んだ知識を基に総合的に演習し、診療放射線技師としての基本的知識のまとめと問題解決能力を養う。具体的には、外部放射線治療の計算、小線源の線量計算を中心に、部位別放射線治療方法について実践形式で学ぶ。
			磯 昌宏	診療放射線技師	
放射線治療技術学実習	1	3	星野 洋満	診療放射線技師	放射線治療に必要な基礎技術の習得を目標とし、標準測定法によるビームデータの収集技術、及び線量計算アルゴリズムを理解する。具体的には高エネルギーX線及び電子線を用いた治療計画の作成、小線源治療の線量計算について学ぶ。照射補助器具の作成、使用方法、矩形照射野の計算手法を習得する。また、モンテカルロシミュレーションの理解、治療計画のQA、QC、患者接遇等について学ぶ。
			磯 昌宏	診療放射線技師	
放射線治療技術学臨床実習	2	4	星野 洋満	診療放射線技師	これまで学内で学んできた放射線治療技術の諸科目などを基礎として放射線治療装置の操作、取扱い方法、治療計画の策定、実施、線量測定照射方法について、臨床現場において学ぶ。医療施設において放射線治療の実践を体験することにより、放射線治療の進め方、必要とされる知識及び技術、態度を統合し、放射線治療領域における診療放射線技師の役割を理解する。また、放射線治療を受ける対象である患者や家族との医療コミュニケーションを通してペイシェント・ケアの実践力を高めるとともに、他の医療専門職との連携について理解する。
			磯 昌宏	診療放射線技師	
医療画像情報学演習	1	4	土田 拓治	診療放射線技師	「医療画像情報学Ⅰ・Ⅱ」「医療画像工学」「放射線情報システム学」で得られた知識を基に、演習を通して理解する。
合計単位数	21				

≪医療技術学部≫

実務経験のある教員による授業科目一覧【臨床工学科】

2023年度カリキュラム（2025年度）

授業科目	単位数	履修学年	担当教員	実務経験	授業内容
医用治療機器学演習	1	3	西村 裕介	臨床工学技士	医療施設や在宅などで用いられる治療機器の適正かつ安全な使用方法や保守管理に関する知識及び技術について、医用治療機器学で学んだ内容を整理し、演習を通して理解を深める。具体的には、治療の基礎として、治療の意義と目標、及び電気的治療機器、機械的治療機器、手術用機器などの治療に用いる物理エネルギーの種類と特性、について学び、理解を深める。
臨床支援技術学実習	1	3	齋藤 慎	臨床工学技士	臨床支援技術学で学んだ知識をもとに、医療機器を介した臨床支援に必要な医工学の基礎、及び実践的知識の基礎について、実践を通して技術を学ぶとともに理解を深める。具体的には、心・血管カテーテル治療における電気的負荷装置の操作，輸液ポンプやシリンジポンプを用いた薬剤投与，静脈路の確保・抜針などについて、医療機器を用いた幅広い分野における臨床支援に必要な実践的技術をシミュレーションを用いて学習する。
			西村 裕介	臨床工学技士	
			安野 誠	臨床工学技士	
呼吸療法技術学実習	1	3	近土真由美	臨床工学技士	呼吸療法装置及び周辺医用機器、酸素療法にかかわる機器について、実践を通じて知識・技術及び手技を学ぶ。具体的には、呼吸療法に使用する機器・回路等の準備、人工呼吸装置の点検、組立て、装置の運転・監視条件の設定及び変更、呼吸療法として使用する機器や使用物品の消毒及び廃棄方法、人工呼吸器装着中の患者観察、喀痰吸引などについて学ぶ。
体外循環技術学実習	1	3	安野 誠	臨床工学技士	本科目では、人工心肺装置、補助循環装置と関連機器の原理、構造、仕様について実践を通じて知識・技術及び手技を学ぶ。具体的には、体外循環装置の種類、原理、構造、取扱い、血液ポンプの定常流と拍動流、人工肺、熱交換器、貯留槽、フィルタ、冠灌流回路、血液回収装置、血液物性と流体、体外循環と血液について学ぶ。さらに、血液損傷の機序と臨床的意義や血液希釈の目的と意義について、血流動態、灌流量、血圧と末梢血管抵抗の関係などについて実習を通して理解を深める。
			齋藤 慎	臨床工学技士	
血液浄化療法技術学実習	1	3	宮川 浩之	臨床工学技士	血液透析療法、アフェレシス療法について、実践をとおして知識・技術及び手技を学ぶ。具体的には、血液浄化装置の回路構成の確認、使用する機器・回路等の準備、血液浄化装置の組立て及び回路の洗浄・充填、シミュレータを用いたバスキュラーアクセスへの穿刺、血液浄化装置の運転・監視条件の設定及び変更、回路からの採血、血液浄化装置として使用する機器や使用物品の消毒及び廃棄、血液浄化装置の点検などについて学ぶ。
			近土真由美	臨床工学技士	
医用治療機器学実習	1	3	西村 裕介	臨床工学技士	医療施設や在宅などで用いられる治療機器の適正かつ安全な使用方法や保守管理に関する実践的知識・技術を実習を通して学ぶ。具体的には、医用機器学及び医用治療機器学、及び医用治療機器学演習で学んだ知識をもとに、医用治療機器の基本原理・構造など基本事項について学習する。具体的には、除細動器・AEDなどの電気的治療機器、輸液ポンプ、シリンジポンプなどの機械的治療機器、電気メスなどの手術用機器における保守管理技術を学ぶ。
			安野 誠	臨床工学技士	
総合実習	1	4	大濵 和也	臨床工学技士	臨床実習に必要な技能・態度を備えていること、及び臨床実習の効果を確認するため、臨床実習前後の技能習得における到達度評価を行う。具体的には、臨床工学技士を目指す学生として備えるべき接遇や基礎的な知識・技術の確認と実施、臨床工学技士業務に係る各種医療機器の点検及び準備を行い、業務実施に伴う危険因子の認識、合併症発生時等の対応を含む基本的な実践的知識・技術の確認及び指導を行う。
			近土真由美	臨床工学技士	
			齋藤 慎	臨床工学技士	
			西村 裕介	臨床工学技士	
			宮川 浩之	臨床工学技士	
			安野 誠	臨床工学技士	
臨床実習	7	4	大濵 和也	臨床工学技士	医療における臨床工学の重要性を理解し、かつ、患者への対応について臨床現場で学習し、チーム医療の一員としての責任と役割を理解することを目的とし、血液浄化療法関連実習、集中治療室と手術室での実習を含む呼吸療法関連実習及び循環器関連実習（人工心肺装置を含む）、治療機器関連実習、医療機器管理業務実習、その他医療機関各部門の見学実習、臨床支援技術実習について、生命維持管理装置及び各種医療機器の保守点検・準備などの実施、各種医療機器を用いた治療における患者観察を含む一連の流れを見学し、医療機器の操作法や関連病態への理解を深める。
			近土真由美	臨床工学技士	
			齋藤 慎	臨床工学技士	
			西村 裕介	臨床工学技士	
			宮川 浩之	臨床工学技士	
			安野 誠	臨床工学技士	

≪医療技術学部≫

実務経験のある教員による授業科目一覧【臨床工学科】

2023年度カリキュラム（2025年度）

授業科目	単位数	履修学年	担当教員	実務経験	授業内容
臨床工学総合演習Ⅰ	2	3	近土真由美	臨床工学技士	専門基礎科目、専門科目で学んだ内容についてさまざまな角度から関連付け、演習問題を通して横断的・総合的に復習し、臨床工学技士として必要な医学的・工学的知識、及び臨床支援、安全管理などにおける実践的知識について再確認する。
			大濵 和也	臨床工学技士	
			齋藤 慎	臨床工学技士	
			西村 裕介	臨床工学技士	
			宮川 浩之	臨床工学技士	
			安野 誠	臨床工学技士	
臨床工学総合演習Ⅱ	2	4	大濵 和也	臨床工学技士	専門基礎科目、専門科目で学んだ内容についてさまざまな角度から関連付け、臨床工学総合演習Ⅱで再確認した内容について、再度横断的・総合的に復習を行い、知識の深化・定着させる。また、演習問題を通して臨床工学技士として必要な医学的・工学的知識、及び臨床支援、安全管理などにおける実践的知識について再確認する。
			近土真由美	臨床工学技士	
			齋藤 慎	臨床工学技士	
			西村 裕介	臨床工学技士	
			宮川 浩之	臨床工学技士	
			安野 誠	臨床工学技士	
卒業研究	4	4	大濵 和也	臨床工学技士	教員の指導の下にテーマを設定し、研究目的や方法などを決定する。実際に実験または調査を行い、得られた結果を考察する。これらの過程を通して、創造的な研究を行う能力を養成する。研究指導は研究グループごとに分かれて行い、定期的に研究の進捗状況の報告と、その後の研究計画などをディスカッションして研究を推進していく。詳細な研究記録をもとに、その成果をまとめ、卒業研究発表会にてグループ単位で発表を行う。
			近土真由美	臨床工学技士	
			齋藤 慎	臨床工学技士	
			西村 裕介	臨床工学技士	
			宮川 浩之	臨床工学技士	
			安野 誠	臨床工学技士	
合計単位数	22				

≪医療技術学部≫

実務経験のある教員による授業科目一覧【臨床工学科】

2022年度カリキュラム（2025年度）

授業科目	単位数	履修学年	担当教員	実務経験	授業内容
医用治療機器学実習	1	3	西村 裕介	臨床工学技士	本科目では、医用治療機器の適切な操作と保守管理を行うことができるよう、医用治療機器の基本事項について学習する。具体的には、電気的治療機器の原理、構造、操作、保守管理、レーザメス及び超音波メスの原理、構造、操作、保守管理について学び、さらに、安全性の維持目的のため、保守点検による実習を行う。ここでいう電気的治療機器とは電気メス、人工ペースメーカ、除細動器、電磁波治療器などである。
生体機能代行装置学実習	1	3	近土真由美	臨床工学技士	本科目では、「生体機能代行装置学Ⅰ」「生体機能代行装置学Ⅱ」で学習した内容について実習を行う。「生体機能代行装置学Ⅰ」についての実習では、代謝系の整理と病態、臨床的意義、種類・原理・構造、流体力学と物質輸送論、血液浄化の物理学、血液浄化技術、周辺医用機器の原理と操作取扱い、患者管理、事故事例と安全対策、新たな技術と機器、保守管理点検技術について学ぶ。また、「生体機能代行装置学Ⅱ」についての実習では、呼吸・循環に関わる生体機能代行装置である人工呼吸器、人工心肺装置、補助循環装置、人工透析装置、の操作法、保守点検、安全管理について学ぶ。
			齋藤 慎	臨床工学技士	
呼吸療法装置学実習	1	3	近土真由美	臨床工学技士	人工呼吸器では気道内圧加圧方式、胸郭外陰圧方式などを、呼吸療法技術では自発呼吸と人工呼吸、生体機能に与える影響、各種換気モードの特徴と臨床的意義、IPPV、CPPV、CPAP、EIP、IMV、SIMV、PSV、IRV、APRV、高頻度換気、吸気酸素濃度測定、酸素濃度計の種類・原理・構造・取扱い、吸気ガスの加湿、加湿器の種類・構造・取扱いなど、人工呼吸器システムの原理、構造、性能、安全性について実習を通して理解する。
体外循環装置学実習	1	3	齋藤 慎	臨床工学技士	本科目では、人工心肺装置、補助循環装置と関連機器の原理、構造、仕様について学習する。具体的には、体外循環装置の種類、原理、構造、取扱い、血液ポンプの定常流と拍動流、人工肺、熱交換器、貯留槽、フィルタ、冠灌流回路、血液回収装置、血液物性と流体、体外循環と血液について学ぶ。さらに、血液損傷の機序と臨床的意義や血液希釈の目的と意義について、血流動態、灌流量、血圧と末梢血管抵抗の関係などについて実習を通して理解する。
血液浄化療法装置学実習	1	3	近土真由美	臨床工学技士	「血液浄化療法学」で学習した血液浄化装置に関する実習を行う。血液浄化装置として代表的な人工透析装置システム（ダイアライザー、血液回路、透析液、送血ポンプなど）の原理、構造、性能、安全性について、実習を通して理解する。具体的には、透析の原理（拡散、限外濾過、透析膜、膜素材、生体適合性、滅菌法、透析器の形状、仕様、操作条件、性能指標）、患者血液の流れ、透析液の流れ、関連装置・機器、透析液供給装置、患者監視装置、水処理装置、監視項目）について学ぶ。さらに装置側として、透析液温度、透析液圧力、透析液濃度などを実習から学ぶ。
			宮川 浩之	臨床工学技士	
医用機器安全管理学実習	1	2	近土真由美	臨床工学技士	本科目では、電気的エネルギー安全限界と許容値、離脱限界電流、心室細動発生電流、マクロショック、ミクロショック、高周波電磁波と皮膚熱傷、人体電撃反応などについて学習する。具体的には、事故事例や事故対応、安全基準と医療機器のクラス分類、保護手段と追加保護手段、医療施設の電気設備安全基準、電気的安全性の測定、医療ガスの安全、医療ガスの種類と危険性、ボンベと取扱いなどである。医療機器の安全基準、規定を背景に測定法に関する概念と安全を確保する技術の基本を実習を通して理解する。
臨床実習Ⅰ	4	4	大濵 和也	臨床工学技士	臨床工学技士として医療現場における基礎的な実践能力を身に付け、医療における臨床工学の重要性を理解する。患者への対応について、臨床現場で実際に学習し、チーム医療の一員としての責任と役割を自覚する。実習項目は、血液浄化装置実習、集中治療室・人工呼吸器実習、手術室・人工心肺装置実習、医療機器管理業務実習の4項目とする。
			近土真由美	臨床工学技士	
			齋藤 慎	臨床工学技士	
			西村 裕介	臨床工学技士	
			宮川 浩之	臨床工学技士	
			安野 誠	臨床工学技士	
臨床実習Ⅱ	3	4	大濵 和也	臨床工学技士	臨床工学技士として医療現場における応用的な実践能力を身に付け、医療における臨床工学の重要性を理解する。本科目では、医療の質の維持と向上のため臨床工学技士の守備範囲となる、医療機器の安全使用・適正使用について更に学習する。具体的には、医療現場における医療機器の保守点検及び管理業務を実際の臨床現場で経験することとする。さらに、医療機器システム安全管理、外来、検査室及び入院病室での医療機器活用状況を適宜実習することにより、即戦力を備えた臨床工学技士となることを目的とする。
			近土真由美	臨床工学技士	
			齋藤 慎	臨床工学技士	
			西村 裕介	臨床工学技士	
			宮川 浩之	臨床工学技士	
			安野 誠	臨床工学技士	

≪医療技術学部≫

実務経験のある教員による授業科目一覧【臨床工学科】

2022年度カリキュラム（2025年度）

授業科目	単位数	履修学年	担当教員	実務経験	授業内容
臨床工学総合演習Ⅰ	2	3	近土真由美	臨床工学技士	本科目では、臨床工学技士として、また医療職の一員として必要な知識及び技術の習得を演習を通して確認する。与えられた演習問題を通して臨床工学技士が必要とする知識を連携させて理解を深めることを目的とする。また、これまでの大学教育で得られた知識の総まとめとして、臨床工学技士として学んだ医学・工学知識を整理する。
			大濵 和也	臨床工学技士	
			齋藤 慎	臨床工学技士	
			西村 裕介	臨床工学技士	
			宮川 浩之	臨床工学技士	
臨床工学総合演習Ⅱ	2	4	大濵 和也	臨床工学技士	本科目では、臨床工学士として、また医療職の一員として必要な知識及び技術の習得を演習を通して確認する。与えられた演習問題を通して臨床工学技士が必要とする知識を活用し、他職種との連携を踏まえて総合的に理解を深めることを目的とする。また、これまでの大学教育で得られた知識の総まとめとして、臨床工学技士として学んだ医学・工学知識を整理する。
			近土真由美	臨床工学技士	
			齋藤 慎	臨床工学技士	
			西村 裕介	臨床工学技士	
			宮川 浩之	臨床工学技士	
			安野 誠	臨床工学技士	
卒業研究	4	4	大濵 和也	臨床工学技士	教員の指導の下にテーマを設定し、研究目的や方法などを決定する。実際に実験または調査を行い、得られた結果を考察する。これらの過程を通して、創造的な研究を行う能力を養成する。研究指導は研究グループごとに分かれて行い、定期的に研究の進捗状況の報告と、その後の研究計画などをディスカッションして研究を推進していく。詳細な研究記録をもとに、その成果をまとめ、卒業研究発表会にてグループ単位で発表を行う。
			近土真由美	臨床工学技士	
			齋藤 慎	臨床工学技士	
			西村 裕介	臨床工学技士	
			宮川 浩之	臨床工学技士	
			安野 誠	臨床工学技士	
合計単位数	21				